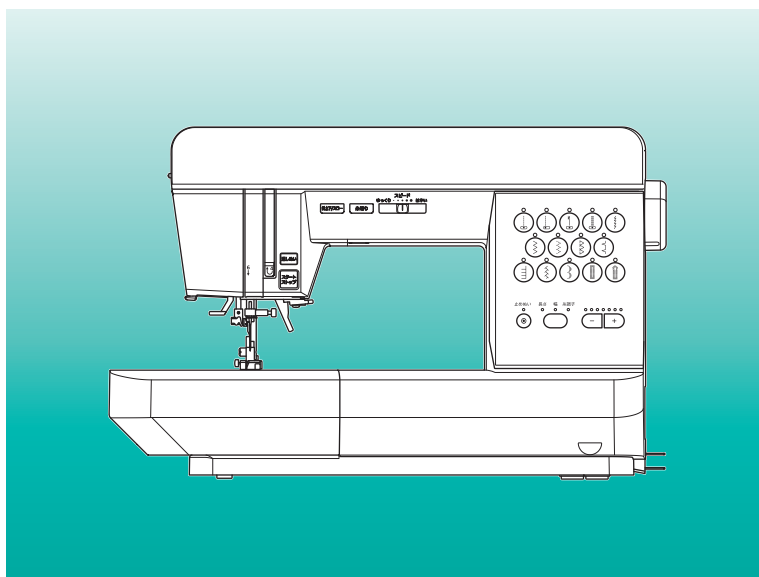




使用の手びき

型式：TRX-3000



SINGER®

このミシンを安全にお使いいただくため、
この「使用の手びき」をご使用前に必ず
お読みください。
「使用の手びき」は手元に保管し、末長く
ご活用ください。

このたびは、シンガーミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用コンピュータミシンです。

このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」をお読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

安全にご使用いただくために _____

誤った使い方をしたときに生じる危害や損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただきたいことを説明しています。
危害や損害の程度を表す表示の意味と内容は以下のとおりです。

 警告	誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項です。
 注意	誤った取り扱いをすると、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項です。

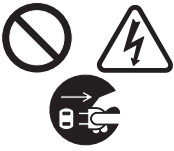
「使用の手びき」で使用されている図記号の意味は次のとおりです。

	してはいけない内容です		実行しなければならない内容です		感電の危険があります
	分解してはいけません		電源プラグを抜いてください		火災の危険があります
	水に濡らしてはいけません		気をつけていただく内容です		針の下に指を入れないでください

 警告 感電、火災の恐れがあります。	
 	1. 一般家庭用交流電源 100 V 以外では使用しないでください。感電・火災の恐れがあります。
	2. 以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。感電・火災の恐れがあります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシンを使用中に停電したとき ・ミシンのお手入れをするとき ・ミシンを移動させるとき ・ミシンが正常に作動しないとき ・雷が鳴りはじめたとき

 注意 感電、火災、けがなどの原因となります。	
	1. 以下のようなところには置かないでください。故障や火災の原因になります。 ・異常に温度が高くなる場所 ・屋外や直射日光の当たるところ ・油煙や湯気の当たるところ ・湿気やほこりの多いところ
 	2. 直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンなど温度の高くなるもののそばや、火の気のあるもののそばでは使用しないでください。ミシンの内部部品や電源コードの被膜が溶けて、感電・火災の原因となります。
 	3. スプレー製品などを使った部屋では使用しないでください。可燃性ガスへの引火によるやけどや火災の原因となります。
 	4. ミシンが傾いたりぐらついたりするような不安定な場所には置かないでください。倒れたり、落下するとけがの原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
 	5. コンセントや配線器具の定格を超えるようなたこ足配線はしないでください。感電や発熱による火災の原因となります。
 	6. 濡れた手で電源プラグの抜き差しはしないでください。感電の原因となります。
	7. 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・差し込みの緩いコンセントは使用しないでください。
	8. 電源プラグを抜くときは電源スイッチを切り、プラグを持って抜いてください。電源コードを持って抜くとコードが傷み、感電・火災・ショートの原因となります。
	9. 電源プラグのほこりは乾いた布で定期的にふき取ってください。プラグにほこりがたまると絶縁不良となり、火災の原因となります。

	10. 電源コードやプラグを破損するようなことはしないでください（傷つける、加工する、加熱する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物をのせる、たばねるなど）。破損したまま使用すると、感電・火災・ショートの原因となります。 電源コードやプラグが破損したときはミシンの使用をやめ、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。
	11. 電源コードは、赤いマーク以上引き出さないでください。断線の恐れがあります。
	12. 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグを抜いてください。通電した状態で放置、保管すると、絶縁劣化・ろう電などにより火災の原因となります。
	13. 袋類は、お子様がかぶらないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。誤ってかぶると窒息の恐れがあります。
	14. お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるとき、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
	15. ミシンを移動するときは、不用意に持ち上げたり、動かしたりしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	16. ミシンを持ち運ぶときは、必ずハンドルを持ってください。他の部分ではこわれたりすべて落ちていたりして、けがや故障の原因となります。
	17. ミシンに水をこぼしたり濡らしたりしないでください。感電・火災の原因となります。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。
	18. ミシン本体のすきまに異物を入れたり、ドライバーなどを差し込んだりしないでください。感電・けが・故障の原因となります。万一、針などの異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。
	19. 別売り品や交換部品は、必ずシンガー指定のものをお使いください。指定外のものを使用すると、けが・故障の原因となります。
	20. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。感電・火災・けがの原因となります。使用の手びきに記載されている以外の点検、修理、調整、掃除は、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご依頼ください。
	21. 使用の手びきに記載のあるミシンのお手入れを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。けが・感電の原因となります。
	22. ミシン操作中は、針から目を離さないようにし、針、ハズミ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
	23. 針や押えを交換するときは電源スイッチを切り、使用の手びきの説明にしたがって確実に固定してください。取り付けを誤るとけがや故障の原因となります。
	24. 上糸や下糸をかけるときは、使用の手びきの手順にしたがって正しく行ってください。糸かけが正しくないと、縫製中に糸がからんで、針が曲がったり折れたりして、けがの原因となります。
	25. 曲がった針や先がつぶれた針は使用しないでください。針が折れてけがの原因となります。
	26. 糸や針は、使用の手びきにしたがって布地に合ったものをお使いください。デニム地などの厚めの布に細い針を使うと、針が折れてけがの原因となります。

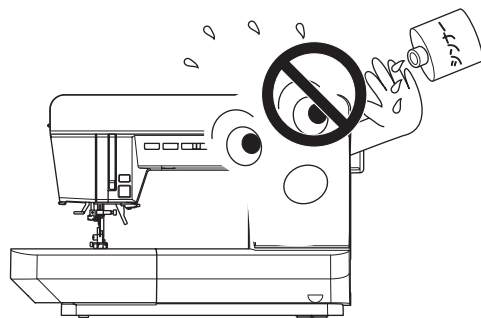
	27. 押えは、使用の手びきにしがって正しい模様や設定でお使いください。誤った模様や設定では、針が押えにぶつかって折れる恐れがあります。
	28. 針の下に指などを入れないでください。けがをする恐れがあります。
	29. 縫製中に布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けがや針折れの原因となります。
	30. シームリッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときにけがをする恐れがあります。
	31. フットコントローラー（別売り品）の上に物をのせないでください。けがや故障の原因となります。
	32. ミシンやフットコントローラー（別売り品）に以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店、または別掲の「お客様相談係」にご連絡の上、点検、修理、調整をお受けください。そのまま使用すると感電・火災の原因となります。 ・正常に作動しないとき ・落下などにより破損したとき ・水に濡れたとき ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき ・煙が出たり、異常な臭いや音がするとき ・中に異物が入ったとき

- シンガーは、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品を予告なく変更することがあります。
- ミシンをご使用になる方（お子様を含む）が、身体・知覚・精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には、監督者またはミシンを安全に使え、ミシンの危険を理解している人のもとでのみ使用してください。
- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
- 職業用としてご使用になった場合は保証をいたしかねますので、ご了承ください。

- 「使用の手びき」の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 「使用の手びき」の内容は必要に応じて予告なく変更することがあります。
- 「使用の手びき」の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら別掲の「お客様相談係」にご連絡ください。

ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管は、なるべく寒いところをさけてください。



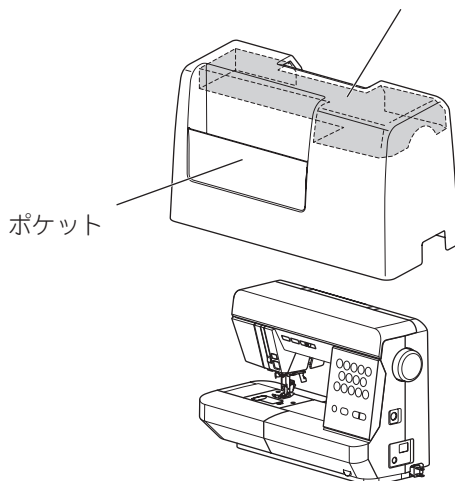
ミシンカバー

ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。
ミシンカバーのポケットには、この手びきが収納できます。

お願い：

ミシンカバーの内部に貼り付けてある発泡スチロールは、
取り外さないでください。

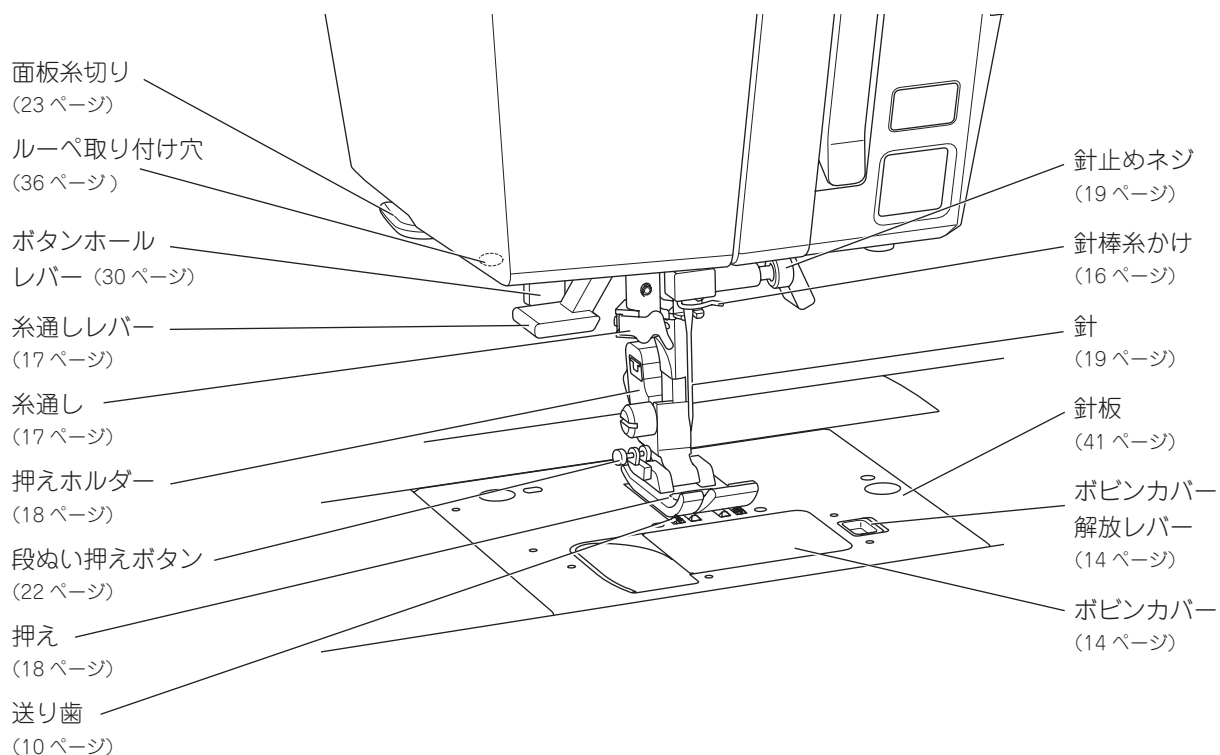
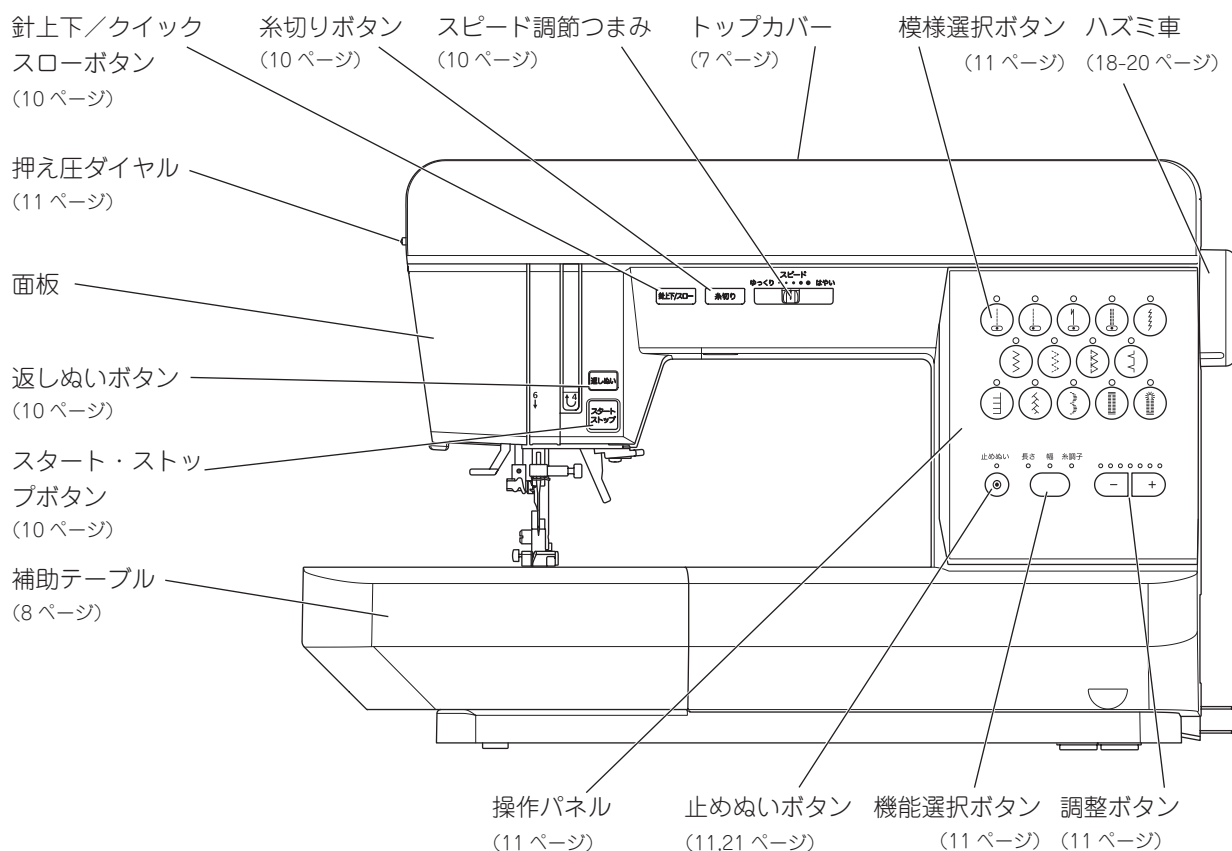
この発泡スチロールは、
取り外さないでください

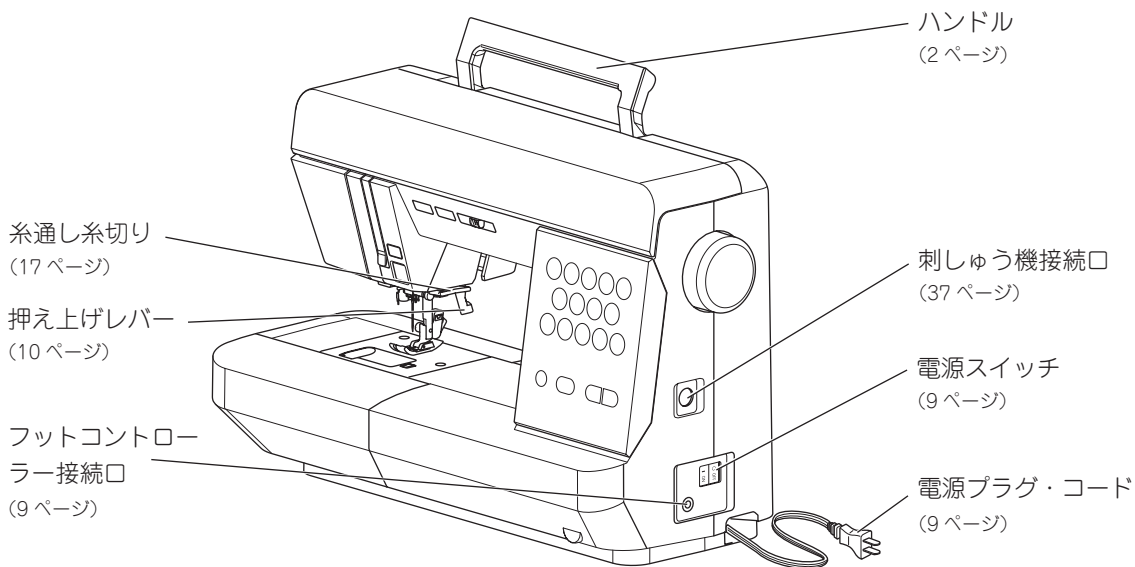
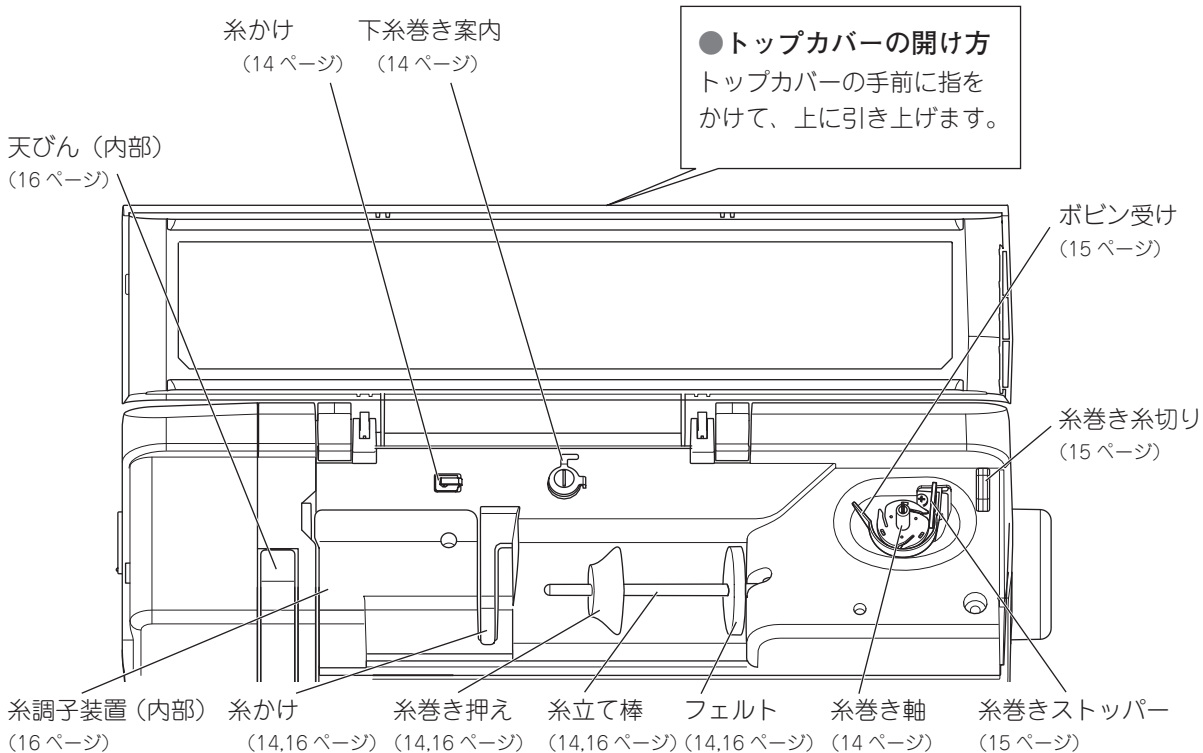


目次

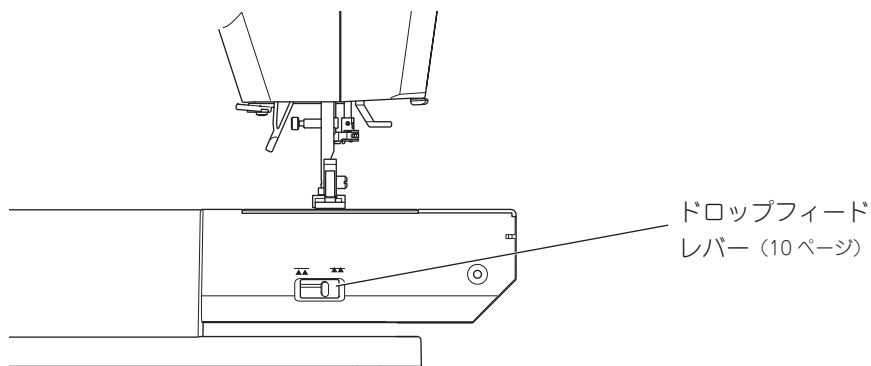
安全にご使用いただくために.....表紙裏	ぬってみましょう.....20
ミシンの取り扱い.....4	ぬい始め～ぬい終わり.....20
ミシンカバー.....4	返しぬい.....21
各部のなまえ.....6	自動止めぬい.....21
付属品・補助テーブル.....8	ぬい方向の変え方.....22
補助テーブルの開け方.....8	厚地のぬい始め（段ぬい押えボタンの使い方）.....22
補助テーブルの取り外し方.....8	段ぬい.....23
付属品.....8	糸切りボタンを使わないとき.....23
電源を入れましょう.....9	下糸を長くにとってぬい始めたいとき.....23
フットコントローラーのご案内（別売り品）.....9	直線ぬい.....24
各部のはたらき.....10	自動返しぬい付直線ぬい.....24
スタート・ストップボタン	伸縮ぬい.....25
（お知らせランプ）.....10	伸縮強化ぬい.....25
針上下／クイックスローボタン.....10	ジグザグぬい.....26
糸切りボタン.....10	つくろいぬい（点線ジグザグぬい）.....26
スピード調節つまみ.....10	ふちかがりぬい（たち目かがり）.....27
返しぬいボタン.....10	まつりぬい（プラインドステッチ）.....28
押え上げレバー.....10	アップリケ.....29
ドロップフィードレバー.....10	スカラップ ステッチ.....29
押え圧ダイヤル.....11	ボタンホールぬい.....30
模様の選び方 / 模様の調整.....11	ファスナー付け（つき合わせ・脇あき）.....32
模様選択ボタン.....11	つき合わせ.....32
機能選択ボタン.....11	脇あき.....33
調整ボタン.....11	パッチワーク.....34
止めぬいボタン.....11	ピーシング.....34
ぬい目長さ.....11	クレイジーキルト.....34
ジグザグのふり幅.....12	ピンタック.....35
模様設定一覧.....12	フリーアームぬい.....35
糸調子.....13	ループのご案内（別売り品）.....36
下糸の準備.....14	大型テーブルのご案内（別売り品）.....36
ボビンの取り出し方.....14	刺しゅう機のご案内（別売り品）.....37
下糸の巻き方.....14	キルティング押えのご案内（別売り品）.....38
ボビンのセット.....15	キルティング押えの取り付け方.....38
上糸の準備.....16	ぬい方（曲線ぬい）.....38
上糸のかけ方.....16	上送り押えのご案内（別売り品）.....39
糸通しの使い方.....17	上送り押えの取り付け方.....39
押えと押えホルダーの取りかえ方.....18	ぬい方.....39
押えの取りかえ方.....18	ミシンのお手入れ.....40
押えホルダーの外し方.....18	ミシン表面、ミシンカバーの掃除.....40
糸と針の選び方.....19	ボビンケースの掃除.....40
針の取りかえ方.....19	外がまと送り歯の掃除.....41
	こんなときには.....42
	LEDライトを消したり、操作音を鳴らなくするには.....43
	仕様.....43
	修理サービス要領.....44
	お問い合わせまたはご相談先
	（純正部品の購入方法）.....44
	保証書.....裏表紙

各部のなまえ





ミシン後ろ側



付属品・補助テーブル

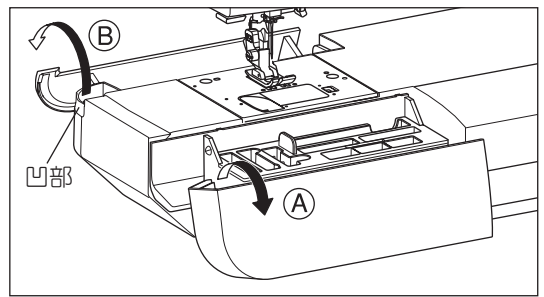
●補助テーブルの開け方

A. 前フタ

テーブルの左側に指をかけ、手前に倒します。

B. 後フタ

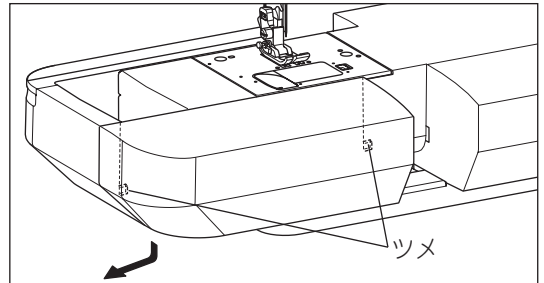
テーブル左後方の凹部に指をかけ、引き上げます。



●補助テーブルの取り外し方

テーブルの左下に指をかけて、左に引きます。

取り付けは、テーブルのツメがミシンに入るように合わせ、右にすべり込ませます。



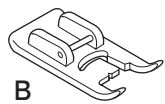
●付属品

付属品は補助テーブルの中に入っています。

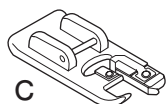
押えには、わかりやすいようにそれぞれ記号がついています。

前フタの中

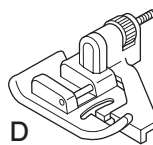
トレイの上に収納されています。



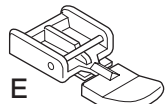
B
サテン押え



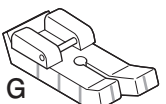
C
ふちかがり押え



D
まつりぬい
(フラインド) 押え



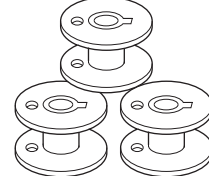
E
ファスナー押え



G
ピーシング押え



針板用ドライバー

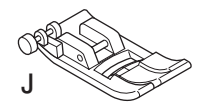


ボビン

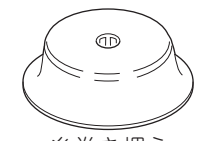


シームリッパー

ミシンについて
います



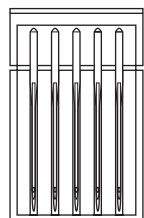
J
ジグザグ押え



糸巻き押え

トレイの下

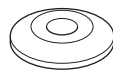
トレイは、つまみを持ち上げて取り外します。



針ケース (5本入り)

11番、14番、16番

ニット針 (黄色) 11番、14番



糸巻き押え
(小)

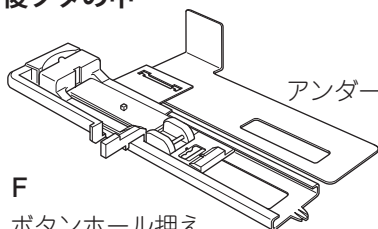


ドライバー



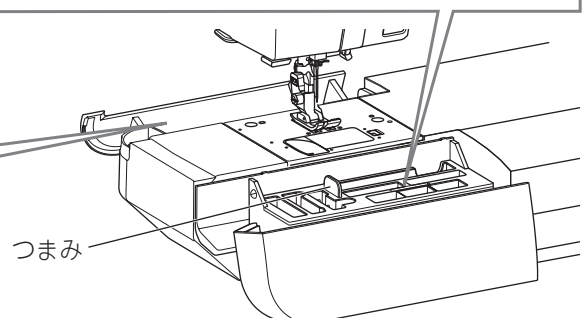
ブラシ

後フタの中



F
ボタンホール押え

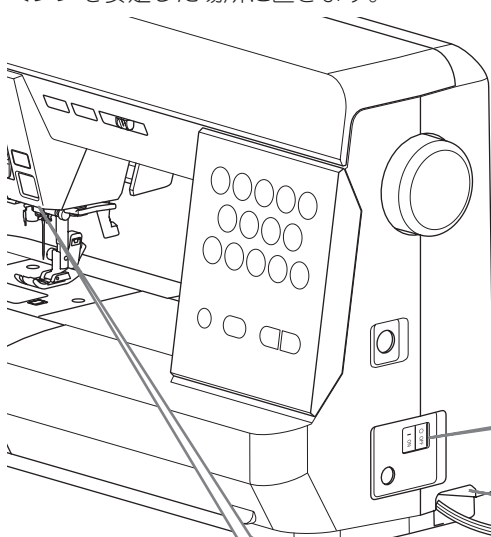
アンダープレート



つまみ

電源を入れましょう

ミシンを安定した場所に置きます。



- ① 電源コードを引き出し、プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために；
コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤いマーク以上引き出さないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。

- ② 電源スイッチを入れます。



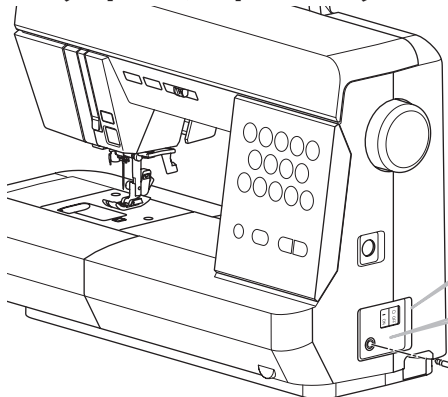
- ③ 電源を入れると、LED ライトが点灯します。

模様は、自動的に直線ぬい () が選ばれます。

- このミシンは、LED ライトを消したり、操作音を鳴らなくする設定ができます。(43 ページ参照)

- コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、放してください。

フットコントローラーのご案内 (別売り品)



別売りのフットコントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。コントローラーを接続するとスタート・ストップボタン (次ページ参照) はきかなくなります。

- ① 電源スイッチを切ります。



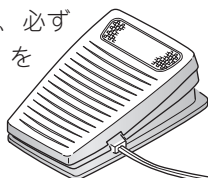
- ② コントローラーのプラグをミシンの接続口に差し込みます。

- ③ コントローラーを足元に置き、電源を入れ直します。
ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。
ペダルを放すとストップします。
スピード調節つまみ (次ページ参照) は、最高スピードを調節します。
速くしたいときは、右にセットしてください。
押えを下げないとスタートしません。(次ページ参照)

タップ機能

ペダルを半分くらい素早く踏んで放すと、針が上のときは下に、下のときは上に移動させることができます。
針の停止位置 (次ページ参照) は、変わりません。

- お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。
- フットコントローラーは、必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。



警告；感電、火災を防ぐために；

フットコントローラーは、落としたり、座ブツの下において使用しないで下さい。



注意：ケガ防止のために；

フットコントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってから行って下さい。

各部のはたらき

●スタート・ストップボタン（お知らせランプ）

1度押すとスタートし、もう1度押すとストップします。

ぬい始めはゆっくり動きます。

緑の点灯 ぬいや下糸巻きの準備 OK

赤の点灯 押えやボタンホールレバーが下りていないのでスタートしません。

ボタンホールの場合2〜3針ぬって止まります。(30ページ参照)

また、ランプが緑でも上糸が正しくかけられていなかったり、なくなったときには、安全装置が働いて数回動いて停止します。糸を正しくかけ直してください。

●針上下／クイックスローボタン

止まっているとき：針上下ボタン

ミシンが止まっているときにこのボタンを押すと、針の停止位置が上下に切りかわります。

●電源を入れた時は、下位置停止に設定されます。

ぬっているとき：クイックスローボタン

ぬいの途中で1度押すと、ゆっくりぬいになります。

もう1度押すと、もとのぬいスピードに戻ります。

●糸切りボタン

ぬいの終わりにこのボタンを押すと、上糸と下糸を同時に切ります。

*番手が30番以下の太い糸やナイロン糸等特殊な糸には、糸切りボタンを使わないでください。

これらの糸を切る場合には、ミシン左側の面板糸切りをお使いください。(23ページ参照)

●スピード調節つまみ

右にスライドさせると速く、左にスライドさせるとゆっくりになります。

●返しぬいボタン

このボタンを押している間、返しぬいを低速でぬいます。離すと止まります。

●押え上げレバー

このレバーで押えの上げ下げをします。押えが上がっているときは、ミシンはスタートしません。(下糸巻きを除く)

●ドロップフィードレバー

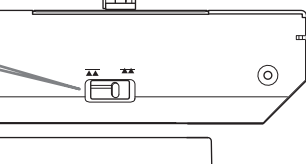
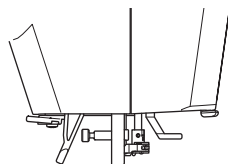
ミシン後ろ側の針板の下にドロップフィードレバーがあります。このレバーで送り歯の上げ下げをします。

後ろから見てレバーを右にすると、送り歯が針板の上に出てきて、布を送ります。通常は、この位置にしておきます。

レバーを左にすると、送り歯が針板より下がり、布を送りません。

キルティング押え（別売り品：38ページ参照）を使って曲線ぬいをするときなど、布を手で操作するときには、この位置にします。

また、別売りの刺しゅう機（37ページ参照）を使って刺しゅうぬいをするときにも送り歯を下げます。



●押え圧ダイヤル

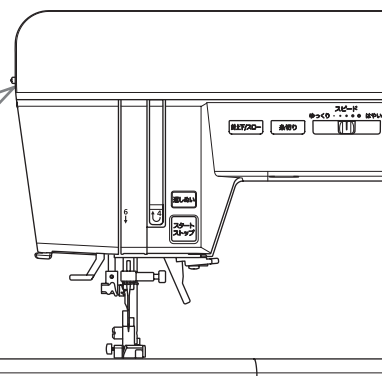
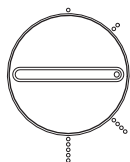
このダイヤルを回して押えの圧力を 5 段階に調節できます。

○: 弱い ○○○: 普通 ○○○○○: 強い

通常は、○○○にしておきます。

ダイヤルは、押えを下げてから回します。

押え圧を変えてぬった後は、○○○に戻しておいてください。



模様の選び方 / 模様の調整

●模様選択ボタン

模様のボタンを指先で軽く押すと、ライトが点灯し、模様が選ばれます。

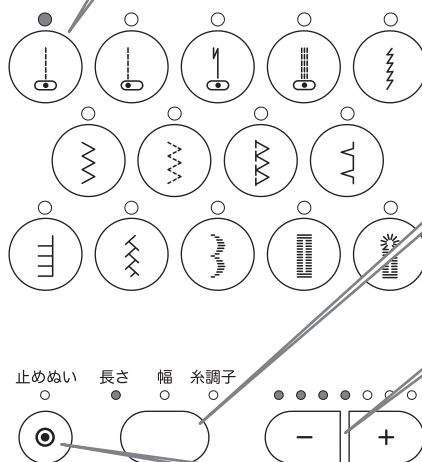
模様を選ぶと、その模様に対応する目長さ、ジグザグのふり幅、糸調子に自動設定されます。

機能選択ボタン、調整ボタンを使って設定を変えることができます。

お知らせ

操作パネル内のボタンは、指先で軽く触っただけで反応しますが、指サックや傷テープなどをしていると反応がにぶくなることがあります。また、操作する人によって反応が異なりますが、ボタンを押す強さによって反応が変わるわけではありません。ボタンを強く押さないでください。

操作パネル



●機能選択ボタン

このボタンを押すごとにぬい目長さ、ジグザグのふり幅、糸調子の調整機能を切り換えます。選ばれた機能のライトが点灯します。

●調整ボタン

ボタンの左右を押して、選ばれた機能の調整をします。調整量に合わせて、ライトの点灯数が変わります。

●止めぬいボタン

ぬいの始めと終わりに自動で止めぬいをします。使い方は 21 ページをご覧ください。

●ぬい目長さ

模様を選んだときにぬい目長さは、その模様に対応する長さで自動設定されます。

これを変えるには次のようにします。

- 1 機能選択ボタンを押して、「長さ」を選びます。
(ライトが点灯します。)

●模様を選んだときは、「長さ」が最初に点灯します。

- 2 調整ボタンでぬい目長さを調整します。

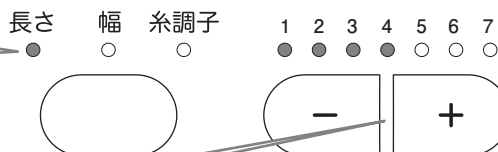
「-」を押すごとにこまかくなります。

「+」を押すごとにあらくなります。

●あらくなるほどライトが右に点灯していきます。

●7段階に調整することができます。

●ぬいながらでも調整することができます。



こまかく あらく

●ジグザグのふり幅

模様を選んだときにジグザグのふり幅は、その模様に応じた最適なふり幅に自動設定されます。これを変えるには次のようにします。

1 機能選択ボタンを押して、「幅」を選びます。
(ライトが点灯します。)

2 調整ボタンでふり幅を調整します。
「-」を押すごとにせまくなります。
「+」を押すごとにひろくなります。

- ひろくなるほどライトが右に点灯していきます。
- 7段階に調整することができます。
- ぬいながらでも調整することができます。(ボタンホールを除く)
- ボタンホールぬい()は、3段階に変わります。
- 伸縮ぬい()は、変えられません。

●直線ぬい()の場合は、ふり幅のかわりに、ぬう時の針の左右位置を変えることができます。

「-」ボタンを押すごとに  左に移動します。

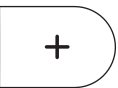
 「+」ボタンを押すごとに 右に移動します。

 は、中央から右に、 は、左から中央に、 は、中央から左右に移動します。

長さ 幅 糸調子

1 2 3 4 5 6 7

○ ● ○ ○ ○ ○ ○ ○

せま<  ひろ<

●模様設定一覧

ぬい目長さとジグザグのふり幅のおおよその目安です。(単位 mm)

自動設定値は、白抜き文字で表示されています。

設定表示ライトの数字は、ライトの点灯数です。

1 2 3 4 5 6 7
● ● ● ● ○ ○ ○

模 様					
設定表示ライト	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
ぬい目長さ	1.0 1.4 1.8 2.5 3.0 4.0 5.0	1.0 1.4 1.8 2.5 3.0 4.0 5.0	1.0 1.4 1.8 2.5 3.0 4.0 5.0	1.2 1.8 2.5 3.1 3.7 4.3 5.0	1.2 1.8 2.5 3.1 3.7 4.3 5.0
針位置 (0.0: 左~7.0: 右)	3.5 4.1 4.7 5.3 5.8 6.4 7.0	0.0 0.6 1.2 1.8 2.3 2.9 3.5	0.0 1.2 2.3 3.5 4.7 5.8 7.0	0.0 1.2 2.3 3.5 4.7 5.8 7.0	3.5

模 様				
設定表示ライト	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
ぬい目長さ	1.0 1.4 1.6 1.8 2.0 2.5 3.0	0.4 0.6 0.8 1.0 1.2 1.6 2.0	1.4 1.6 1.8 2.0 2.2 2.4 2.6	1.0 1.4 1.6 1.8 2.0 2.5 3.0
ジグザグのふり幅	2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 5.0 6.0	2.5 3.0 3.5 4.0 5.0 6.0 7.0	4.0 4.5 5.0 5.5 6.0 6.5 7.0	2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 5.0 6.0

模 様					
設定表示ライト	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
ぬい目長さ	1.4 1.6 1.8 2.0 2.2 2.4 2.6	1.4 1.6 1.8 2.0 2.2 2.4 2.6	0.4 0.5 0.6 0.7 0.8 0.9 1.0	0.4 0.5 0.6 0.7 0.8 0.9 1.0	0.4 0.5 0.6 0.7 0.8 0.9 1.0
ジグザグのふり幅	2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0 5.5	4.0 4.5 5.5 5.5 6.0 6.5 7.0	4.0 4.5 5.0 5.5 6.0 6.5 7.0	3.5 5.0 6.5 3.5 5.0 6.5	5.0 6.5

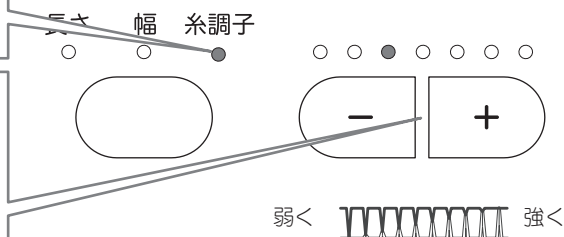
●糸調子

模様を選んだときに上糸の糸調子は、その模様に合わせて自動設定されます。

糸調子を変えてぬいたいときは、次のようにします。

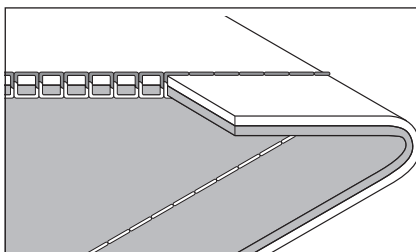
- ① 機能選択ボタンを押して、「糸調子」を選びます。
(ライトが点灯します。)

- ② 調整ボタンで糸調子を調整します。
「－」を押すごとに弱くなります。
● ライトが左に移動します。
「＋」を押すごとに強くなります。
● 強くなるほどライトが右に移動します。
● 7段階に調整することができます。
● ぬいながらでも調整することができます。



自動設定値

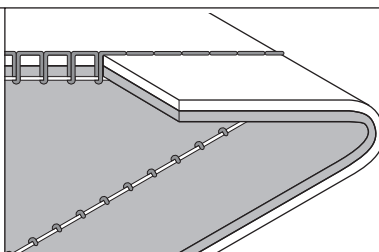
上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。(直線ぬい)



布や糸によっては設定値でも中央にまじわらない場合があります。

上糸が弱いぬい目

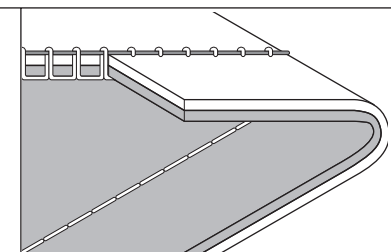
布地の裏側に上糸が出てきます。



上糸が弱すぎる場合は、「＋」ボタンを押します。

上糸が強いぬい目

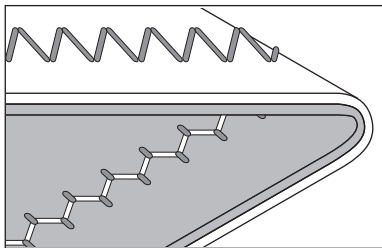
布地の表側に下糸が出てきます。



上糸が強すぎる場合は、「－」ボタンを押します。

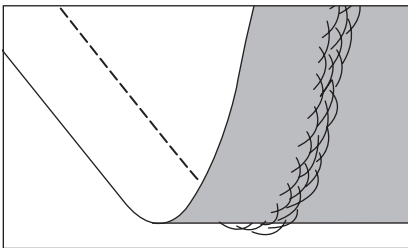
●直線ぬい以外の自動設定値

直線ぬい以外の自動設定値は、直線ぬいのときより糸調子をやや弱めにし、上糸が布の裏側に少し出るように調整されます。

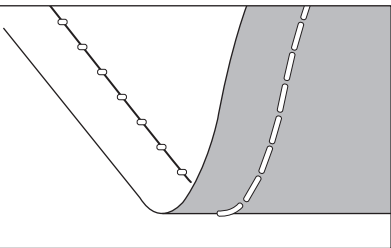


●こんな場合は…

図のように布地の上側は普通にぬえて、下側がタオル地のようにになるときは、上糸のかけ方がまちがっています。16 ページをご覧ください。正しくかけてください。



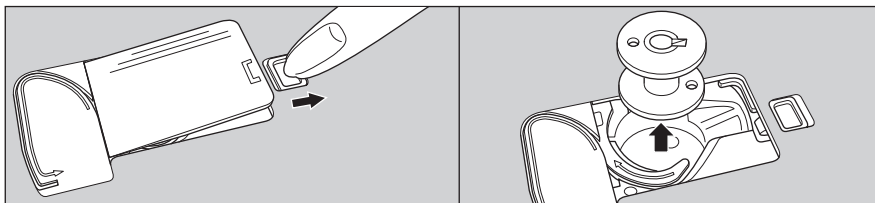
また、糸調子が自動設定値になっているのに、下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンのセットの仕方がまちがっています。15 ページをご覧ください。正しくセットしてください。



下糸の準備

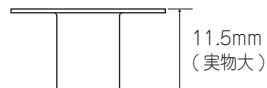
■ボビンの取り出し方

- 1 ボビンカバー解放レバーを右に押して、ボビンカバーを取り外します。
- 2 ボビンを取り出します。

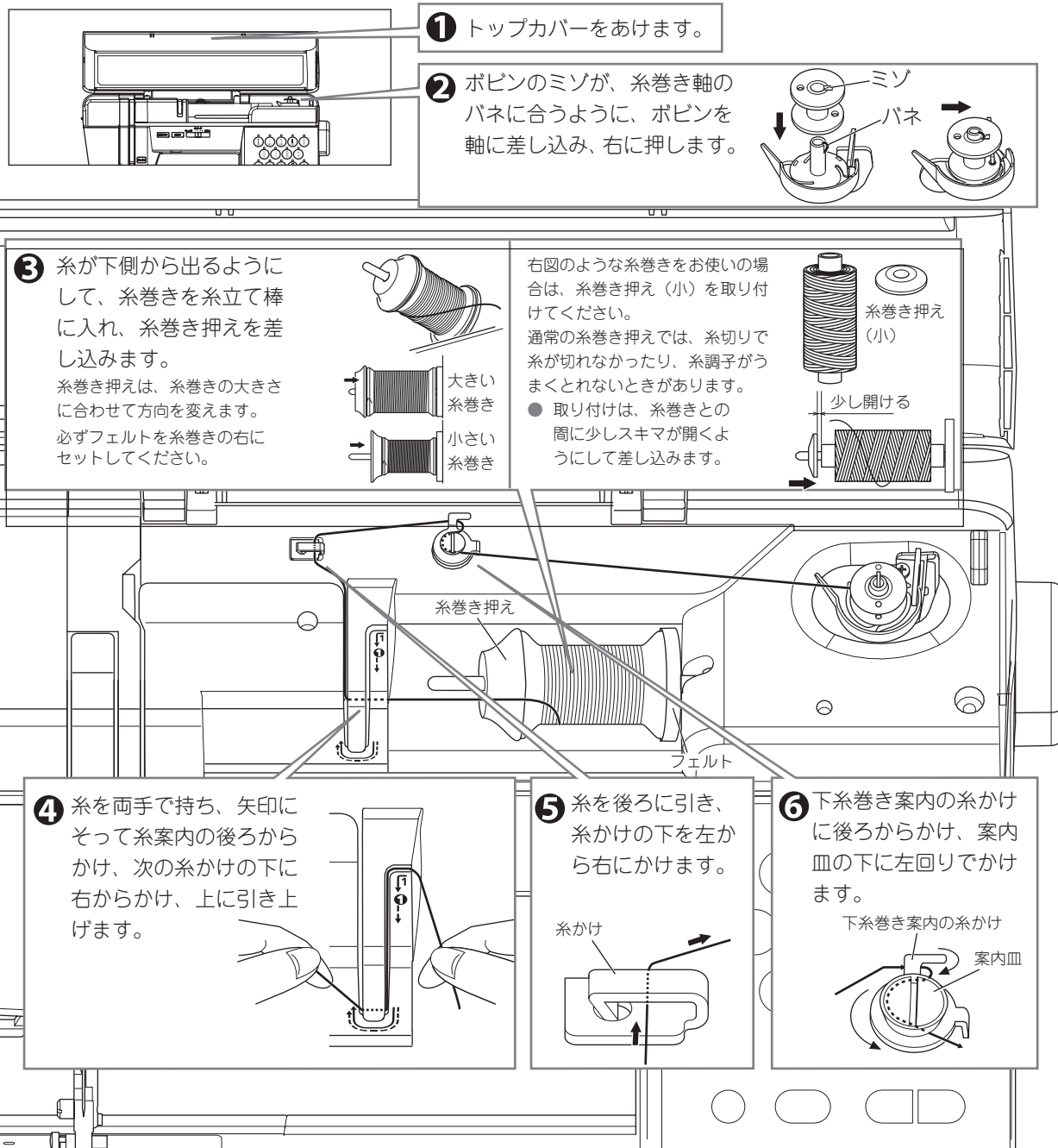


お願い：

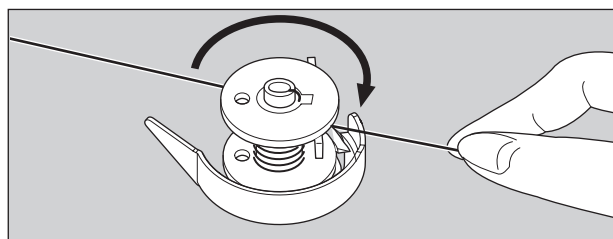
ボビンは、専用のものをお使いください。



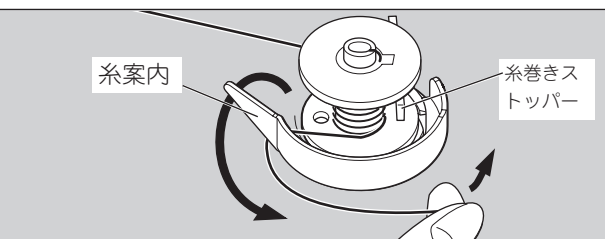
■下糸の巻き方



- 7** 糸がたるまないようにしながら、ボビンに右回りに4、5回、巻き付けます。

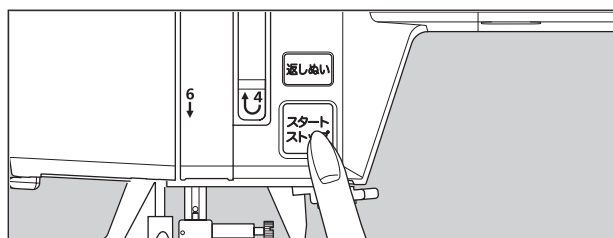


- 8** ボビン受けの糸案内にかけ、左回りに糸を引き、糸切りで切ります。



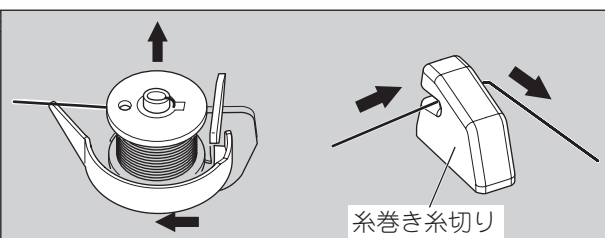
左回りに引くだけで、糸が糸切りにかかり切れます。

- 9** スタートボタンを押します。



糸がボビンに約80%巻かれると、糸巻きストッパーが押され、自動的に止まります。

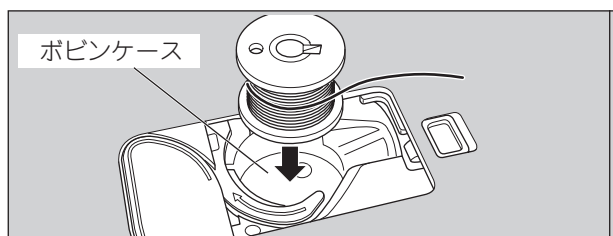
- 10** 巻き終わったら、糸巻き軸を左に戻してボビンを外し、糸巻き糸切りで切ります。



糸巻き糸切りの後ろのミソに糸をかけて切ります。

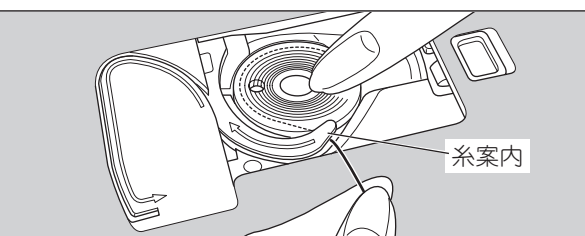
■ボビンのセット

- 1** ボビンを糸が左回りになるようにして、ボビンケースに入れます。

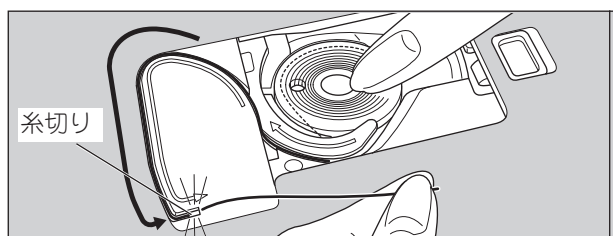


糸の方向を間違えないように注意してください。

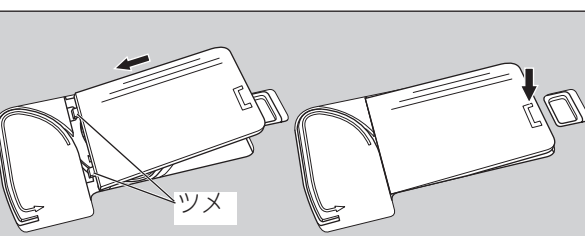
- 2** 右手でボビンを軽く押え、左手で糸を糸案内に引っかけます。



- 3** ミソに沿って、上から下に通し、右に引いて、糸切りで切ります。



- 4** ボビンカバー左側のツメをミソに差し込み、右側を軽く押して取り付けます。



●お知らせ：

このミシンは、下糸を引き上げなくても、このままでぬい始めることが出来ます。

もし、下糸を引き上げてぬいたいときは、23ページの「下糸を長くにとってぬい始めたいとき」を参照してください。

上糸の準備

■上糸のかけ方

順序よく、正しくかけてください。

① 押え上げレバーを上げます。
レバーを上げないと糸調子装置に糸がかからず、糸調子がとれません。

② 針上下ボタンで針を上上げます。
針が上ときは、ハズミ車のマークも上にきます。このマークが上にならないときは、再度針上下ボタンを押すが、ハズミ車を回して上にしてください。

③ トップカバーをあけます。

④ 糸が下側から出るようにして、糸巻きを糸立て棒に入れ、糸巻き押えを差し込みます。
*必ずフェルトを糸巻きの右にセットしてください。糸巻き押えは、糸巻きの大きさに合わせて方向を変えます。

右図のような糸巻きをお使いの場合は、糸巻き押え(小)を取り付けてください。
*通常の糸巻き押えでは、糸切りで糸が切れなかったり、糸調子がうまくとれないときがあります。
● 取り付けは、糸巻きとの間に少しスキマが開くようにして差し込みます。

大きい糸巻き
小さい糸巻き
糸巻き押え
フェルト
少し開ける

⑤ ミシンに表示してある1～6の順番で糸をかけます。

1. 糸を両手で持ち、1の後ろから糸をかけ、矢印にそって糸かけの手前からかけ、上に引き上げます。

2. 矢印にそって糸をかけ、左に引いていきます。

3. 糸を右から左にかけ、矢印にそって手前におろします。(中の糸調子装置に糸がかかります。)

4. 右から左にかけ、上に引き上げます。

5,6. 矢印にそって右から左にかけ、下におろします。(中の天びんに糸がかかります。)

⑥ 針棒糸かけにかけ、針穴に前から通します。
糸通しを使う場合は、次ページを参照ください。

■糸通しの使い方

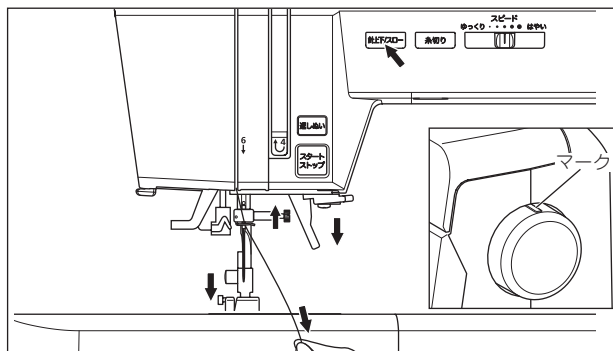
糸通しは、11～16番の針、
50～100番の糸に使えます。

⚠注意：ケガ防止のために；

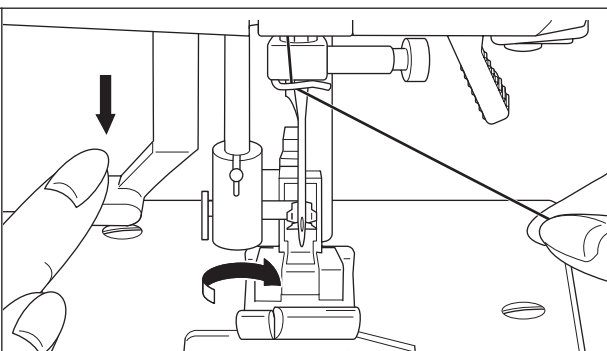
針の下に指を入れないでください。ケガの原因となります。
糸通しレバーを下げたとき、ハズミ車は回さないでください。
ケガや故障の原因となります。

- ①** 糸を針棒糸かけから補助テーブル手前くらいまで引き出して、押え上げレバーを下げます。

- ②** 糸通しレバーを下げて、止めます。
レバーは、下がったまま止まります。



針が上位置にないときは、針上下ボタンで上に上げます。
針が上のときは、ハズミ車のマークも上にきます。

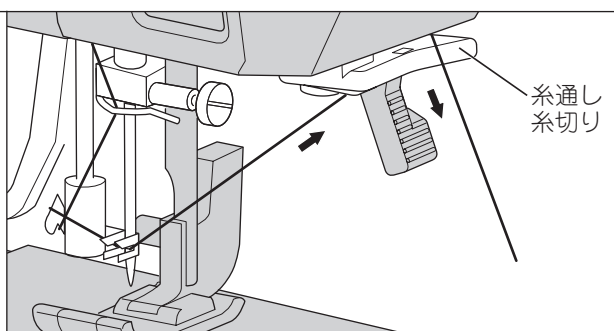
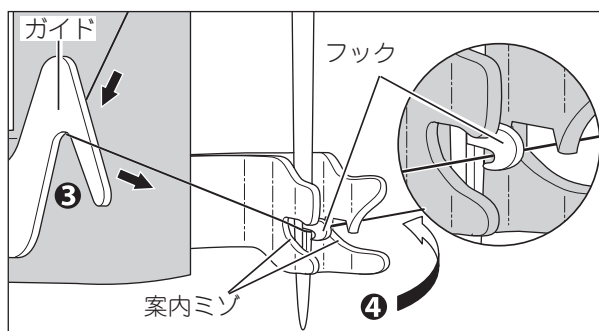


糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

- ③** 糸を糸通しのガイドにかけて、右にひいていきます。

- ⑤** 糸を糸通し糸切りに後ろから手前にかけて切ります。

- ④** 糸を案内ミソに入れます。

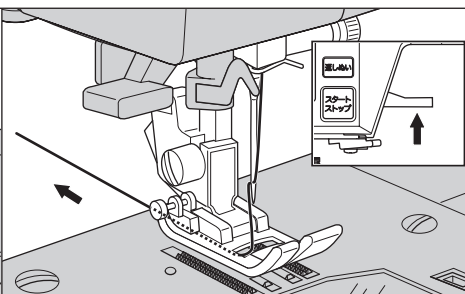
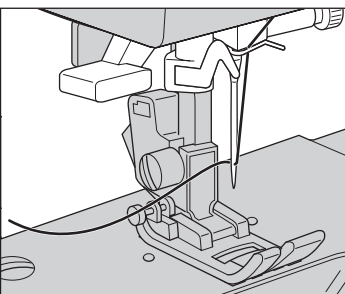
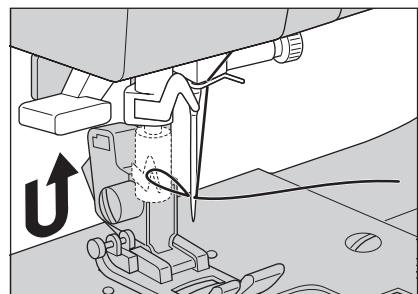


糸がフックに引っかかります。

- ⑥** 糸通しレバーをもう一度押し下げて、放します。

- ⑦** 糸端を引き出します。

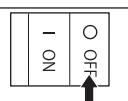
- ⑧** 押えを上げ、上糸を押えの下から10cmくらい後ろへ出しておきます。



糸通しが戻り、糸が輪になって針穴を通ります。

押えと押えホルダーの取りかえ方

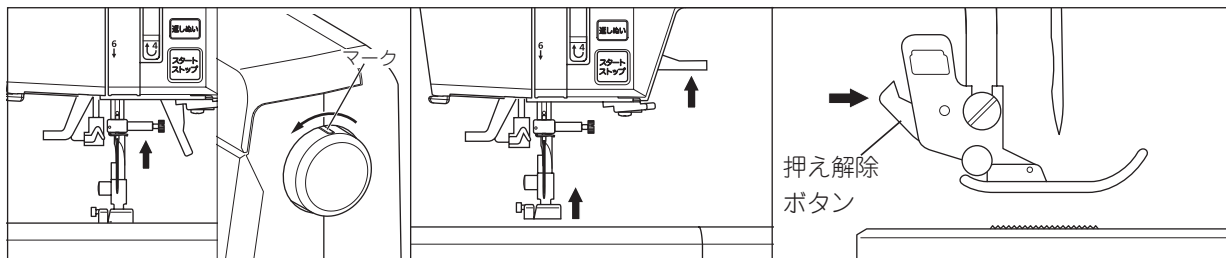
⚠注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



■押えの取りかえ方

押えは、ぬいの種類や用途によって使い分けます。それぞれのぬいに適した押えが24ページ以降に示してあります。

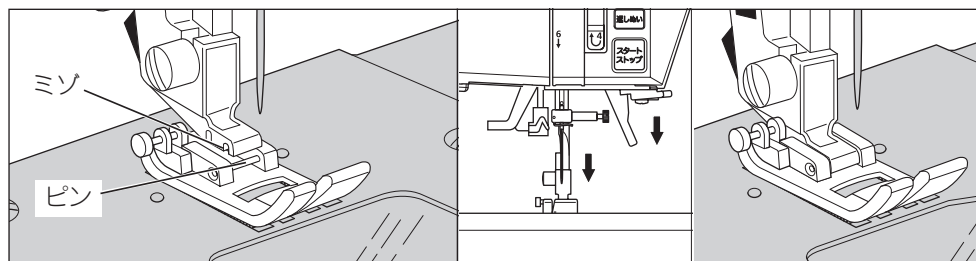
- ① ハズミ車を手前に回して、針を上上げます。
- ② 押え上げレバーを上げます。
- ③ 押え解除ボタンを押します。



ハズミ車のマークが上にきます。

押えが外れます。

- ④ 交換する押えのピンを押えホルダーのミソの真下に合わせます。
- ⑤ 押え上げレバーを下げます。

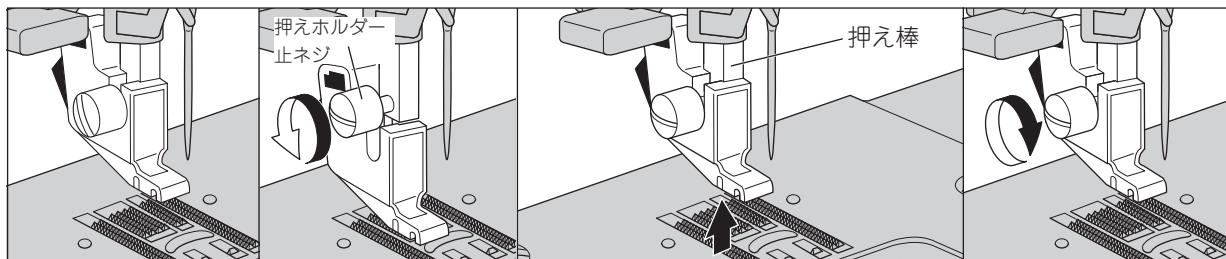


ピンがミソにはまります。
もし、完全にはまらないときは、押え解除ボタンを押してみてください。

■押えホルダーの外し方

お手入れをするときや、キルティング押え、上送り押え（別売り品：38、39 ページ参照）を取り付けるときは、押えホルダーを外します。

- ① 押えを外します。
- ② 押えホルダー止ネジをゆるめます。
- ③ 取り付けるときは、ホルダーを押え棒の下から突き当たるまで持ち上げます。
- ④ ネジをしめます。



前項「押えの取りかえ方」参照

ホルダーが外れます。

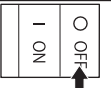
糸と針の選び方

糸と針は、布地の種類や厚さに合わせて選びます。

布地の種類		糸の番号	針の番号	模様（直線）とぬい目長さ （11 ページ参照）
薄地	薄地ジョーゼット、ボイル、オーガンジー、タフタ、絹布など。	綿 80 ～ 100 絹 60 ～ 80 化繊糸 80 ～ 100	9 ～ 11 番	 ぬい目長さ 1.0 ～ 2.5 （設定表示 ライト 1 ～ 4）
普通地	ギンガム、ピケ、リンネル、さらさ木綿、薄手のコーデュロイ、サテン、別珍、一般服地など。	綿 50 ～ 80 絹 50 化繊糸 50 ～ 80	11 ～ 14 番	 ぬい目長さ 1.8 ～ 3.0 （設定表示 ライト 3 ～ 5）
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイなど。	綿 30 ～ 50 絹 50 化繊糸 30 ～ 60	14 ～ 16 番	 ぬい目長さ 2.5 ～ 5.0 （設定表示 ライト 4 ～ 7）
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	化繊糸 50 ～ 80 絹 50 ニット用糸	11 ～ 14 番 ニット用針	

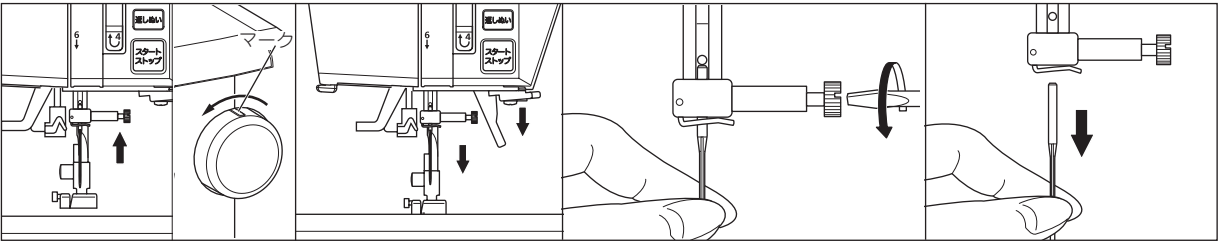
針の取りかえ方

⚠注意：ケガ防止のために；
必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



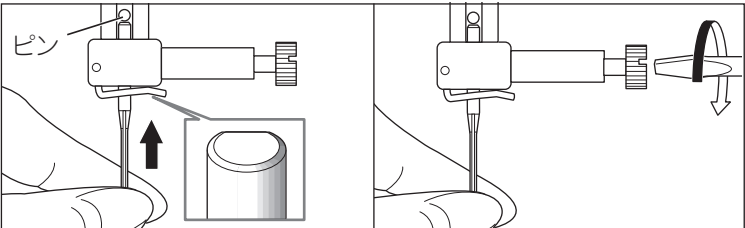
針板の上に紙や布をしいておくと、ミシンの中に針を落とす心配がありません。

- ① ハズミ車を手前に回して、針を上上げます。
- ② 押え上げレバーを下げます。
- ③ 針を左手で持ちながら、針止めネジをゆるめます。
- ④ 針を外します。



ハズミ車のマークが上にきます。

- ⑤ 新しい針の平らな面を後ろにして、ピンにあたるまで差し込みます。
- ⑥ 指で軽くネジをしめた後、付属のドライバーでしっかりしめます。

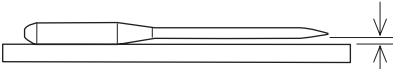


注意：市販の大きなドライバーなどであまり強くしめつけないでください。故障の原因となります。

⚠注意：ケガ防止のために；

- 針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。
- 曲がった針や、先がつぶれた針はご使用にならないでください。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。

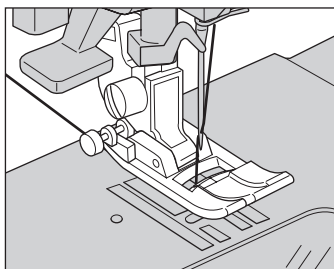


ぬってみましょう

電源を入れると、直線ぬい()が選ばれます。

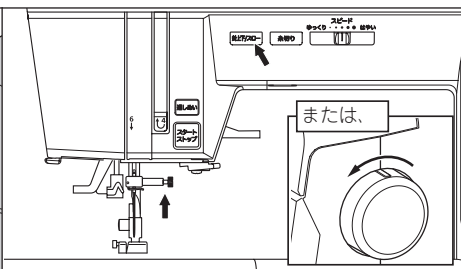
■ぬい始め～ぬい終わり

① 押えを確かめます。
(ジグザグ押え)



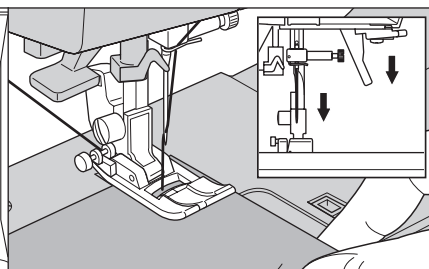
押えの取りかえ方は 18 ページ

② 針上下ボタンを押すか、ハズミ車を
手前に回して、針を上上げます。



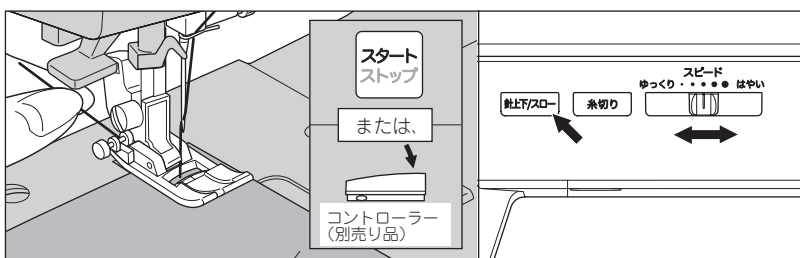
針上下ボタンで上に上げると、停止位置も
上になります。

③ 布地を入れ、押えを下げます。



お知らせランプが緑色になります。

④ 糸端を軽く後ろに持ちながら、ス
タートさせます。



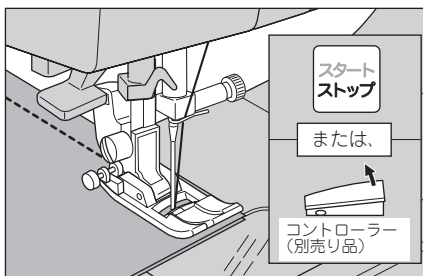
少しぬったら糸を放します。

ぬいながらスピードを調節できます。
また、ぬいの途中で針上下/クイック
スローボタンを押すとゆっくりぬい
になります。

! 注意：ケガ防止のために；

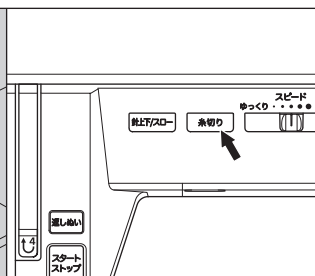
- 針先に十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって自動的
に送られますので、無理に引っ
張ったり、押ししたりしないでく
ださい。針が折れケガをする恐
れがあります。

⑤ 終わりまで来たら、ストップ
します。



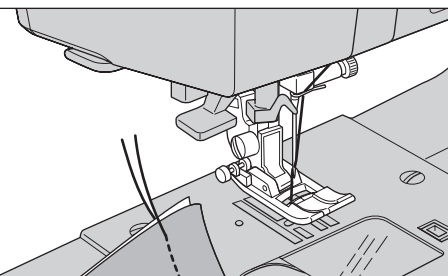
針上下ボタンの設定により、
停止位置は異なります。

⑥ 糸切りボタンを押し
ます。



針の停止位置が上のときは、針が一度下がって糸を切り、上に上がります。
針の停止位置が下のときは、そのまま糸を切り、上に上がります。
このとき針が上に上がっても、停止位置の設定は変わりません。

⑦ 押えを上げ、布を引き出します。



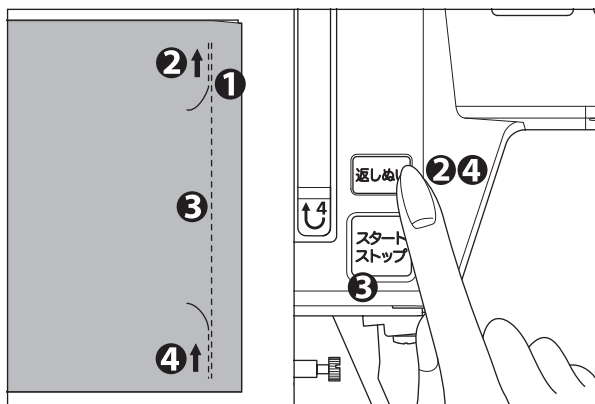
● ご注意

1. 番手が 30 番以下の太い糸や、ナイロン糸等特殊な糸には、糸切りボタンを使わずにミシン左側の糸切りにかけて切ってください。(23 ページ参照)
2. 布のないときや、糸を切る必要がないときに、むやみに糸切りボタンを押さないでください。故障の原因となります。

■返しぬい

ぬい目のほつれを防ぐため、返しぬいボタンを使って、ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。(返しぬいボタンは、押している間、返しぬいをし、離すと止まります。)

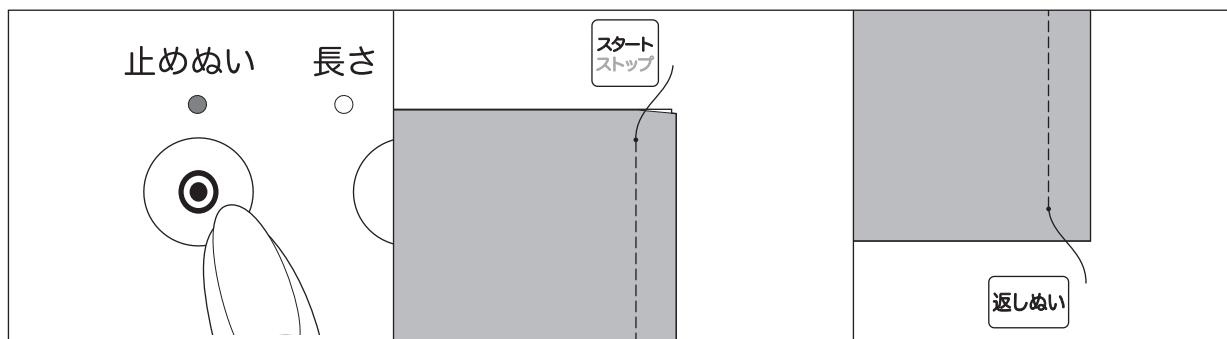
- ➊ 返しぬいの分、布を奥に入れて、押えを下げます。
- ➋ 返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。
- ➌ ぬいをスタートさせます。
- ➍ 終わりまで来たら、返しぬいボタンを押し続けて、4～5針返しぬいをします。



■自動止めぬい

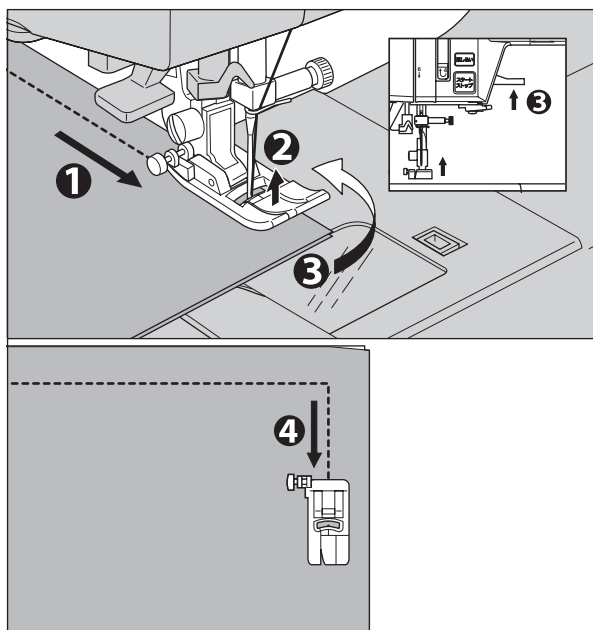
模様のぬい始めとぬい終わりに、自動的に止めぬいをします。

- ➊ 模様を選んだ後、止めぬいボタンを押します。
ボタンが点灯します。
もう一度押すと取り消されます。
- ➋ ぬいをスタートさせます。
ミシンは止めぬいをしてからぬい始めます。
スタート・ストップボタンで中断できます。
- ➌ ぬい終わりまで来たら、返しぬいボタンを1回押します。
ミシンは止めぬいをして自動的に停止します。



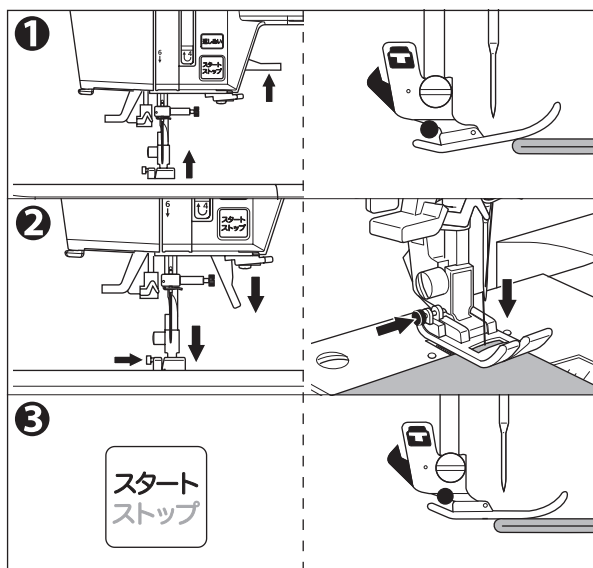
■ぬい方向の変え方

- ❶ 布地の角まで来たら、ストップします。
- ❷ 針を下げ、布に刺します。
針上下ボタンを押すか、ハズミ車を手前に回します。
針上下ボタンで下位置にすると、以後の針停止位置は下になります。
- ❸ 押えを上げ、針を軸にして布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ❹ 押えを下げて、続きをぬいます。

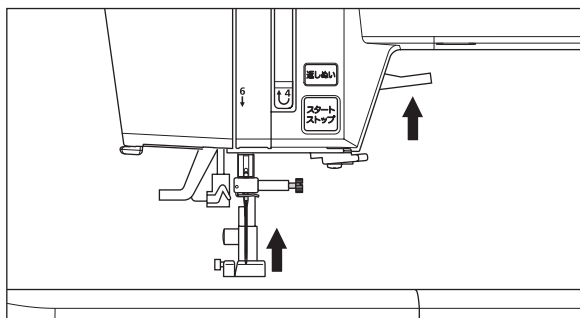


■厚地のぬい始め（段ぬい押えボタンの使い方）

- ❶ 厚地の布端からぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないときは、押えをいったん上げます。
- ❷ ジグザグ押えの左側にある黒い段ぬい押えボタンを押しながら、押え上げレバーを下げます。
- ❸ ぬいをスタートさせます。
押えの傾きが固定されて布が送られます。
ぬい進むと、自動的に固定解除されます。

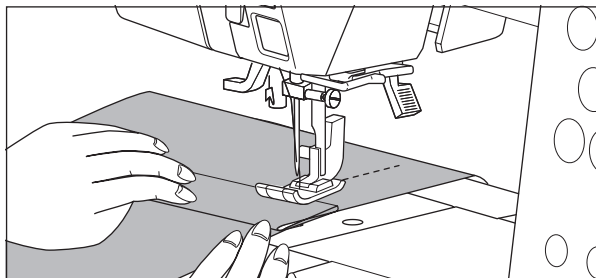


- 押え上げレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、厚地の布が入れやすくなります。



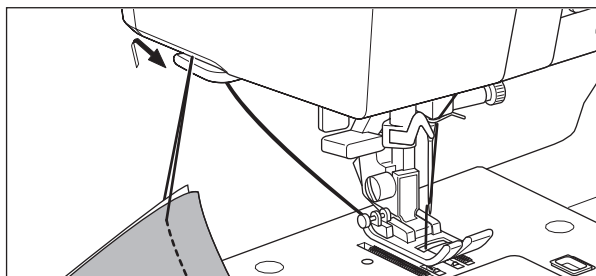
■段ぬい

布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。



■糸切りボタンを使わないとき

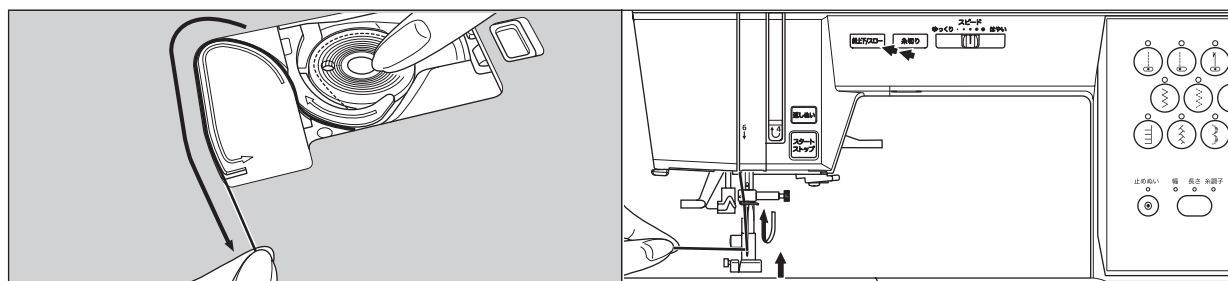
番手が 30 番以下の太い糸や、ナイロン糸など特殊な糸を使っているとき、ぬい端の糸を長くとりたいときなどは、糸切りボタンを使わずに、針と押えを上げて布を引き出し、ミシン左側の面板糸切りに糸を後ろから手前にかけて切ります。



■下糸を長くにとってぬい始めたいとき

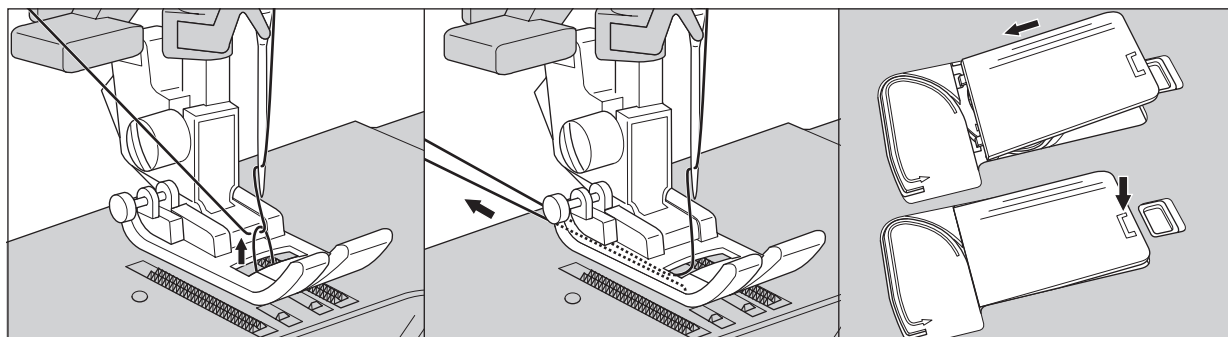
下糸を長くにとってぬい始めたいときは、次のようにして下糸を引き上げておきます。

- 1 15 ページの「ボビンのセット」を見ながらボビンを入れ、糸をミソに通します。このとき、糸は切らないでください。
- 2 押えを上げ、上糸を軽く持ちながら、針上位置から、針上下ボタンを 2 回押します。

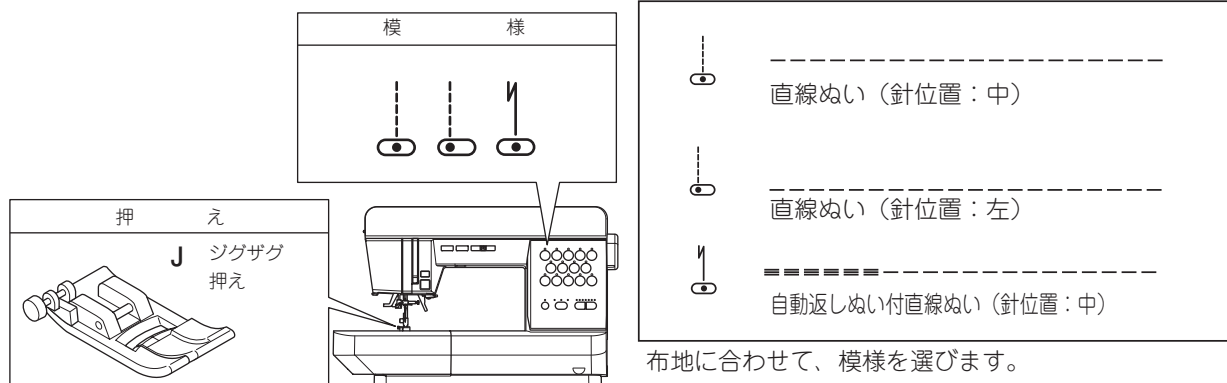


ハズミ車が手前に 1 回転します。

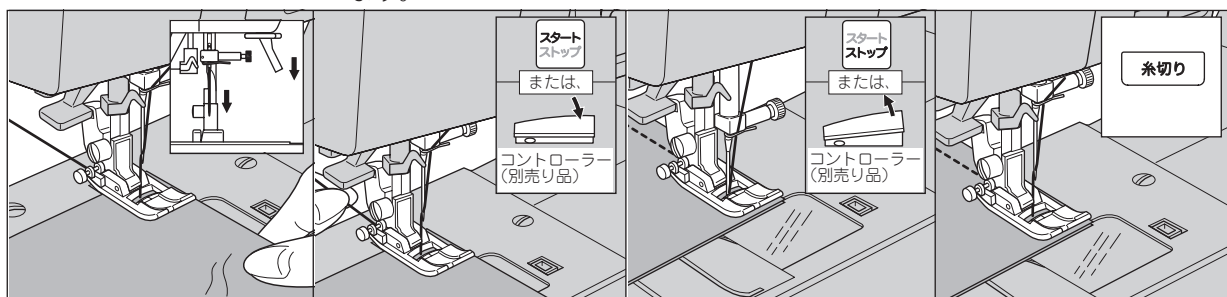
- 3 上糸を静かに引くと、下糸が輪になって出てきます。
- 4 上糸と下糸をそろえて押えの下から 10cm くらい後ろへ出しておきます。
- 5 ボビンカバーを取り付けます。(15 ページ参照)



直線ぬい



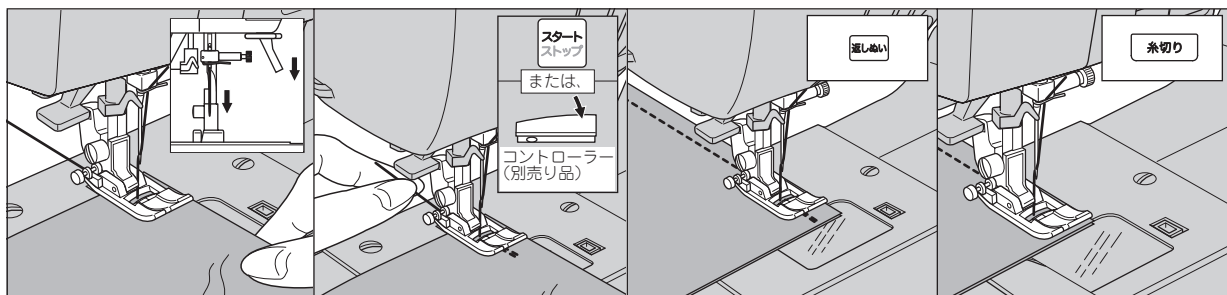
- 1 布を入れ、押えを下げます。
- 2 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタートさせます。
- 3 ぬい終わりまできたら、ストップさせます。
- 4 糸切りボタンを押します。



ぬっている間、手は布に軽くそえるようにします。

■ 自動返しぬい付直線ぬい (1)

- 1 布を入れ、押えを下げます。
- 2 糸端を軽く後ろに持ちながら、スタートさせます。
- 3 ぬい終わりまできたら、返しぬいボタンを1回押します。
- 4 糸切りボタンを押します。

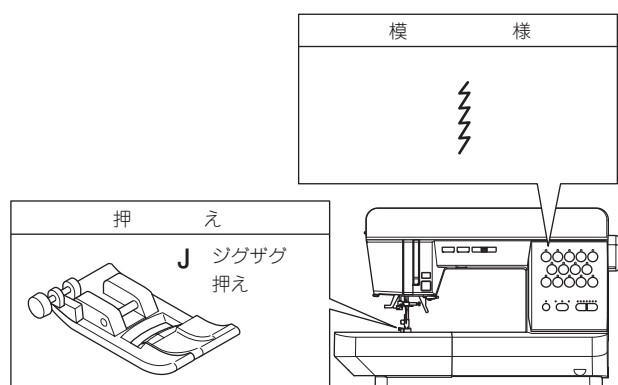


ミシンは数針進んだ後、返しぬいをして、再びぬい進みます。

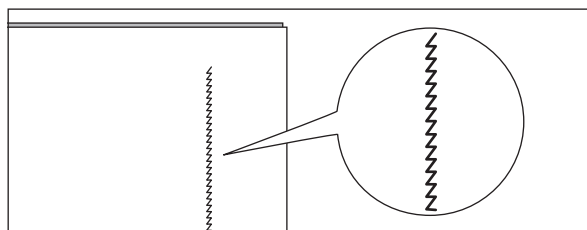
ぬいを中断するには、スタートストップボタンを押します。（コントローラーの場合は、ペダルを放します）

ミシンは数針返しぬいをした後、再びぬい進み、ぬい終わりの位置で自動的に止まります。

伸縮ぬい

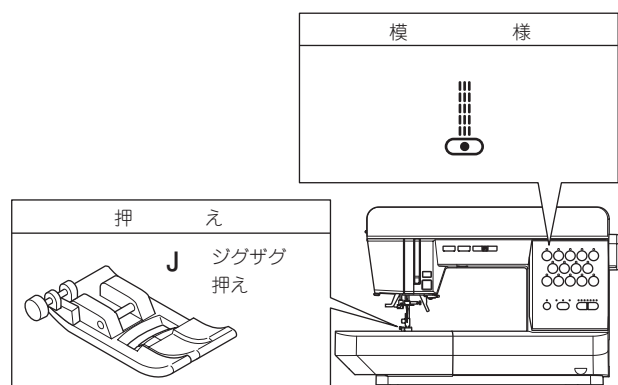


伸縮性のある直線状のぬいです。伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。

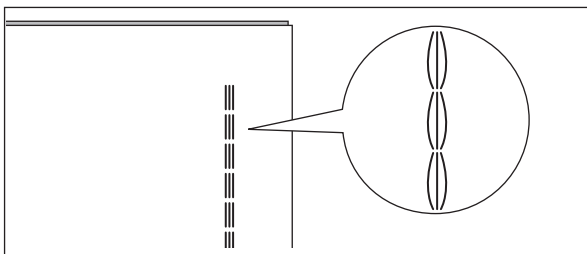


● 伸縮性布地をぬう場合は、ニット針を使うと、目飛びや糸切れを防ぎます。

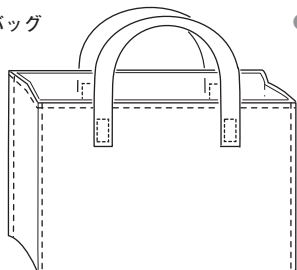
伸縮強化ぬい



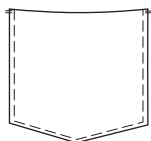
直線の3重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。



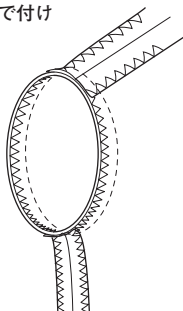
● バッグ



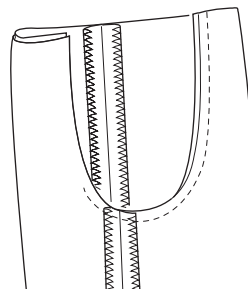
● ポケット



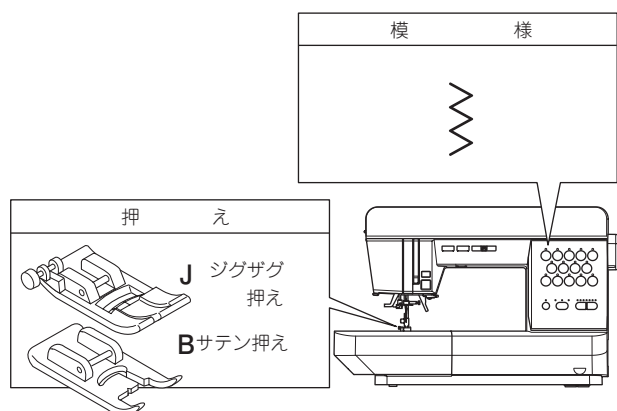
● そで付け



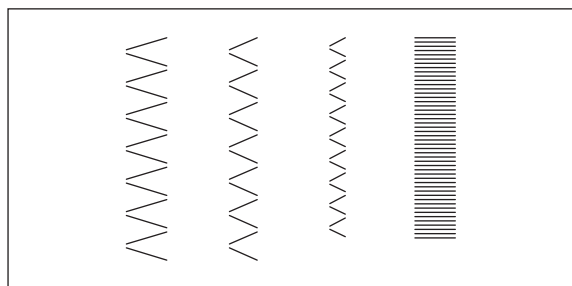
● ズボンの股ぐり



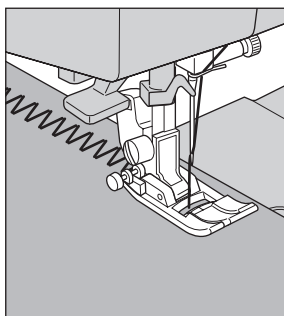
ジグザグぬい



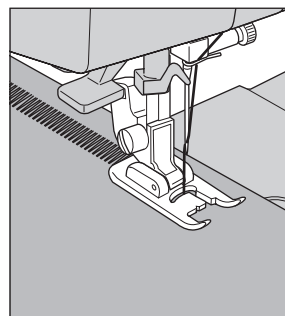
ぬい目長さ、ジグザグのふり幅を調整して
いろいろな形のジグザグぬいができます。



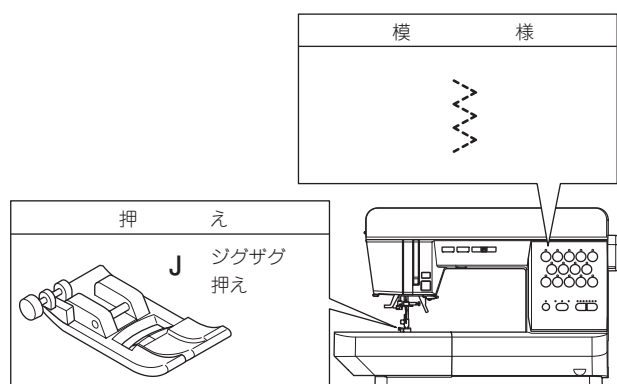
布地のはぎあわせやふちかがりなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。
ふちかがりぬいは、次ページを参照ください。



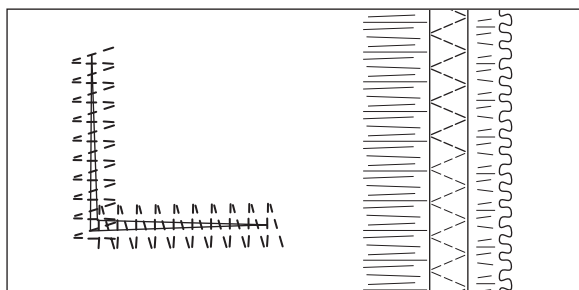
ぬい目長さをこまかくして、密着ぬいをぬう場合には、サテン押えをお使いください。



つくろいぬい（点線ジグザグぬい）

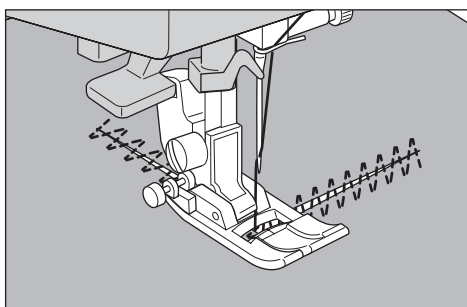


やぶれた布地のつくろいぬいや、ゴムひものぬい付けなどに利用します。



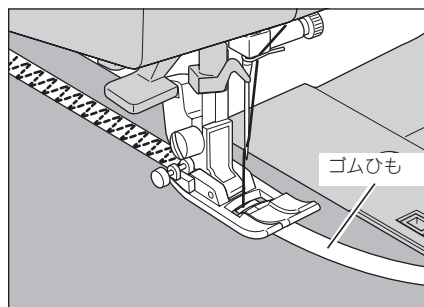
●つくろいぬい

ぬい目の長さをこまかくしてぬいます。



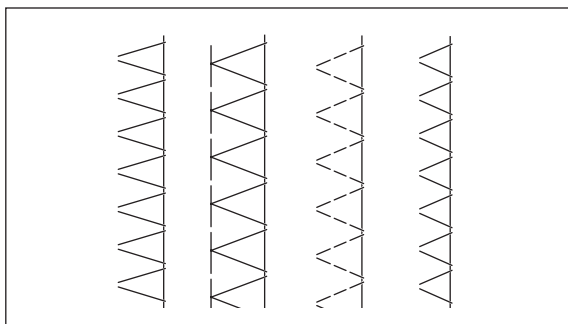
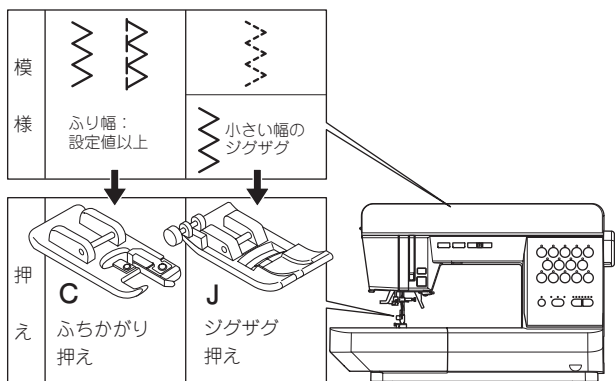
●ゴムひも付け

ゴムひもを前後に伸ばしながらぬい付けます。



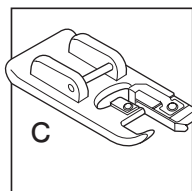
ふちかがりぬい（たち目かがり）

あらゆる布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

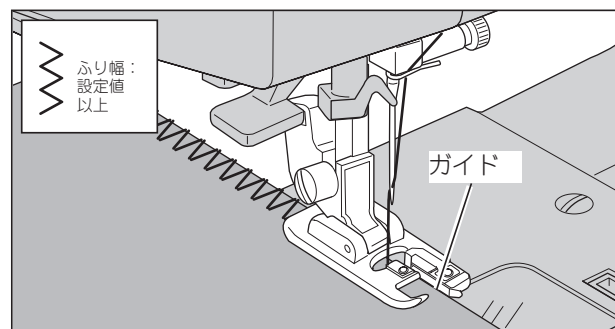


注意：ケガ防止のために；

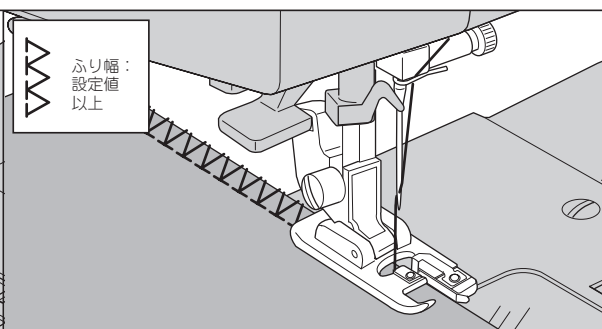
ふちかがり押えを使うときは、必ず模様（）を選び、ふり幅を設定値以上にしてください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様では針が押えにあたり、危険です。



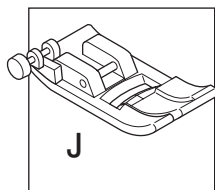
ふちかがり押えを使う場合：
布端を押えのガイドにあて、針が布端いっぱいになるようにしてぬいます。



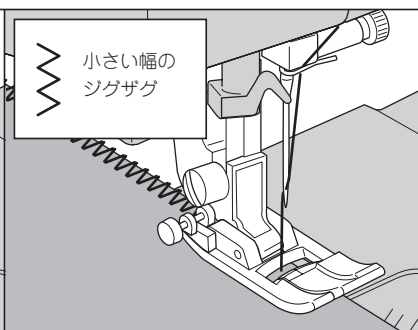
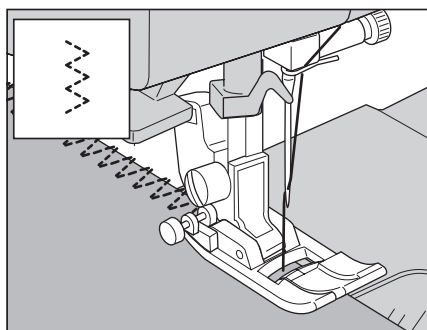
たち目のほつれ止めとして、広く利用します。



かがりぬいと地ぬいが同時にできるぬい方です。タオル地や目の粗いニット地などをぬうときは、ジグザグ押えをお使いください。押えのツメが布にからむことがあります。

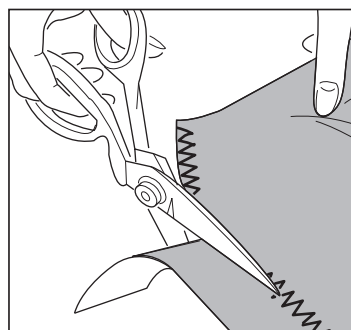


ジグザグ押えを使う場合：
針が布端ぎりぎりになるようにしてぬいます。



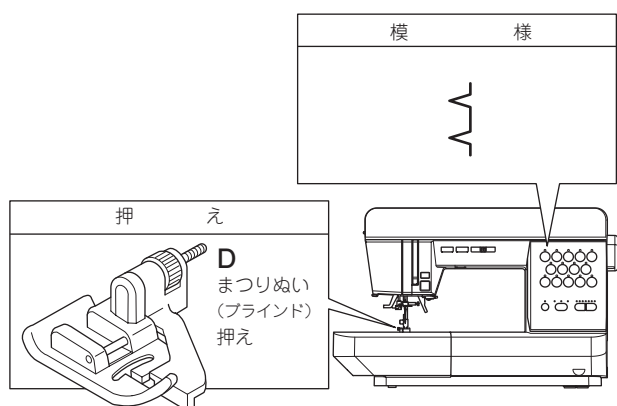
小さい幅のジグザグでかがるときに使います。

あらかじめ布地の内側をぬい、あとからぬい端を切り落とす方法もあります。

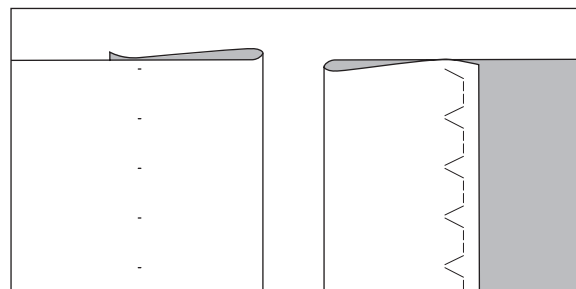


この場合、ぬい糸を切らないように注意してください。

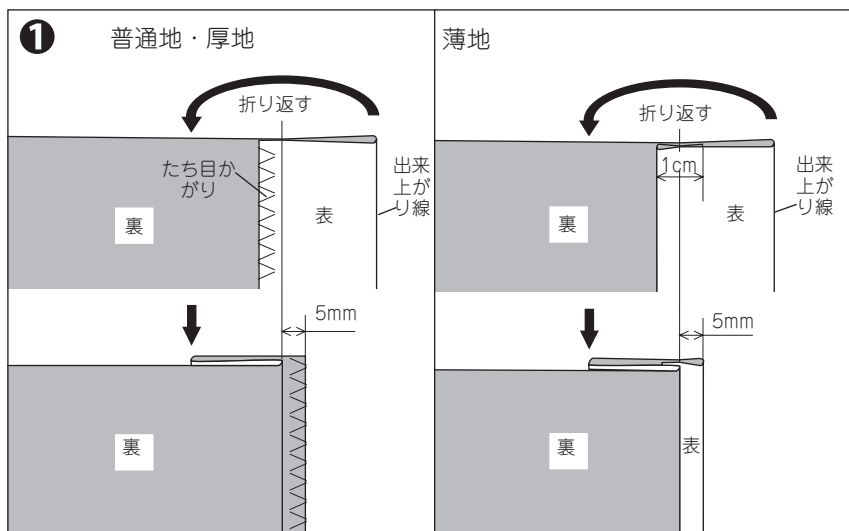
まつりぬい（ブラインドステッチ）



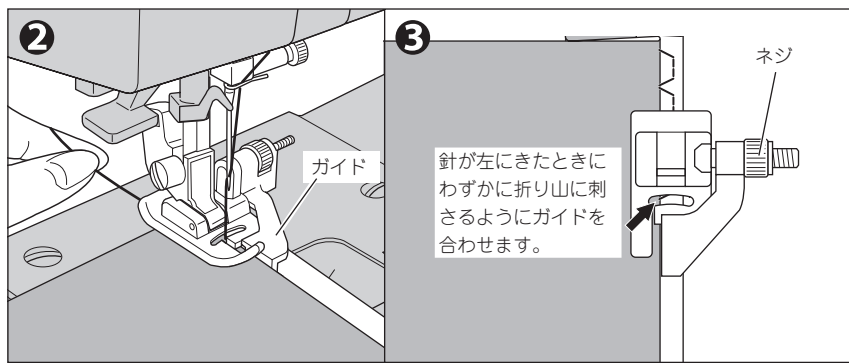
布地の表面に目立たないぬい目を作るぬい方です。
ズボンやスカートのすそ仕上げなどに使います。



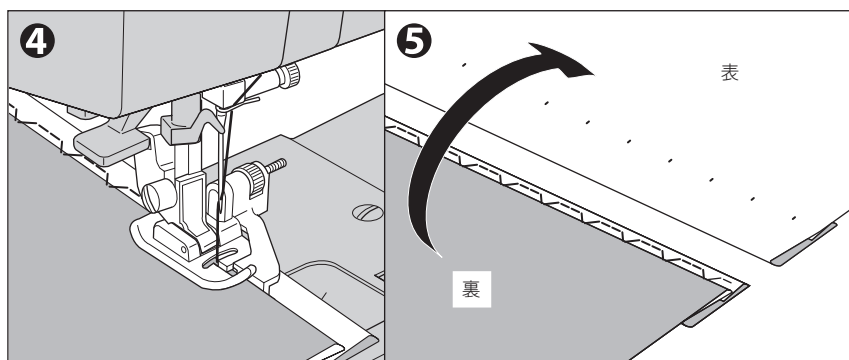
- 1 布を出来上がり線で折り、
図のように布端が5mm 出る
ように折り返します。
薄地の場合、布端をあらかじめ
1cm 中に折り込んでから、5mm 出る
ように折り返します。
ぬい上がり後の布地の裏・表を間違
えないように注意してください。



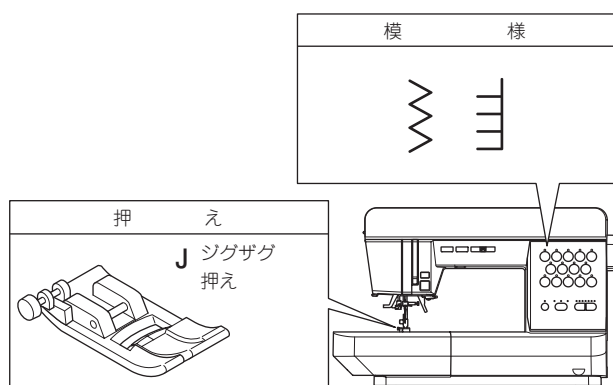
- 2 折り山を押えのガイドにあてます。
- 3 針が最も左側きたときに
折り山にわずかに刺さるよう
にガイドの位置を調節し
ます。
ネジを手前に回すとガイドは右に、
向こう側に回すとガイドは左に移動
します。



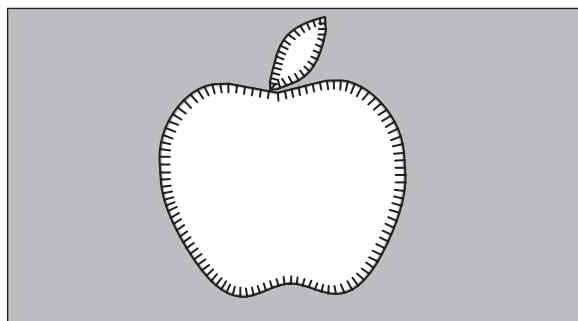
- 4 折り山をガイドにあてながらぬいます。
- 5 ぬい終わりましたら、布を
返します。



アップリケ



市販や自作のアップリケ布を丈夫にぬい付けます。

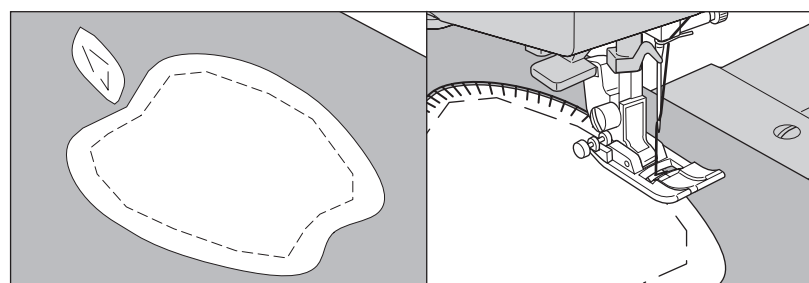


① アップリケ布を止めます。

② アップリケの布端をたち目かがりと同じ要領でぬい付けます。

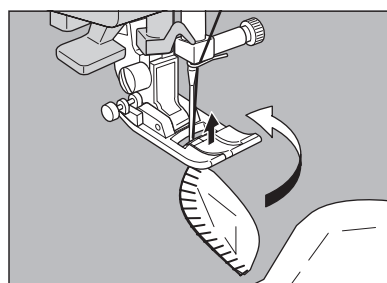
●急な角度をぬう場合

布端に針を落とした状態で押えを上げ、布地を回します。

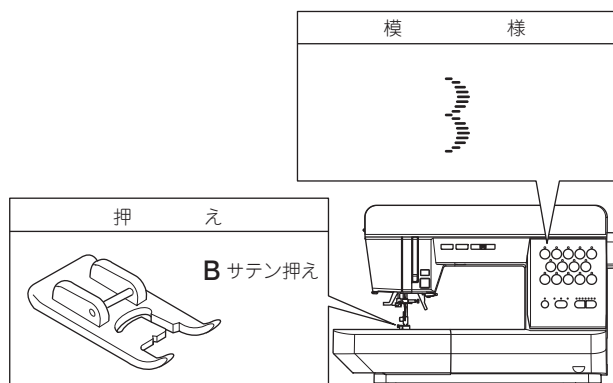


のりづけまたはしつけをします。

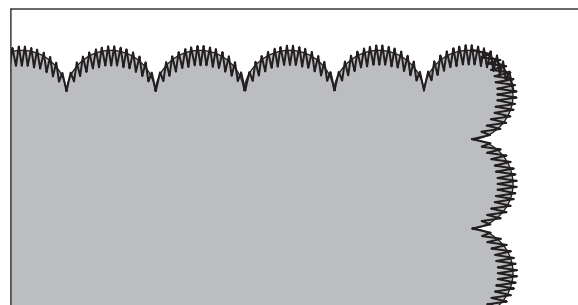
カーブの強いものは、シグザグのふり幅を小さくします。



スカラップ ステッチ

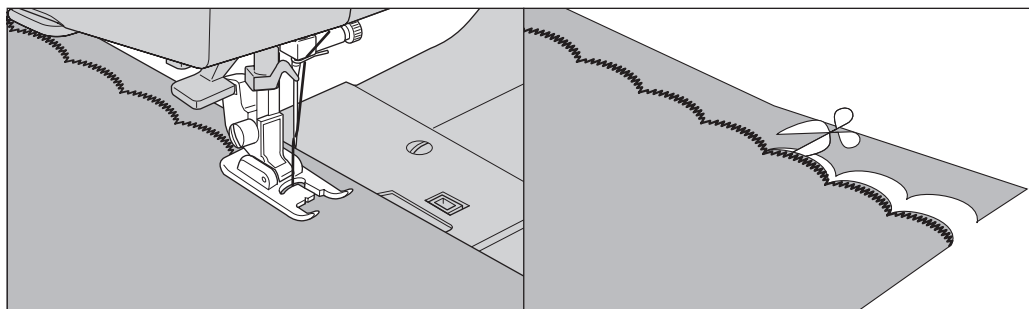


テーブルクロスやブラウスのえりなどのふち飾りに使います。



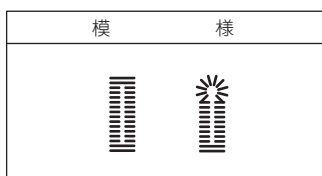
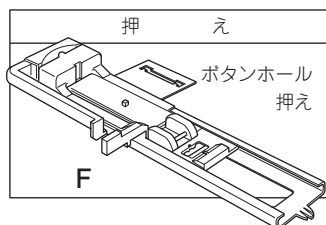
① 布端に模様がかからないように端を残してぬいます。

② 糸を切らないように注意してぬい目にそって布を切ります。

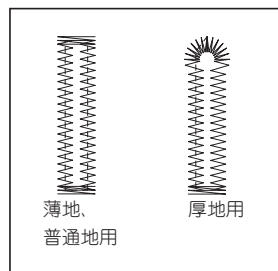


ボタンホールぬい

ボタンホール押えとアンダープレートは、補助テーブルの後ろ側に収納してあります。

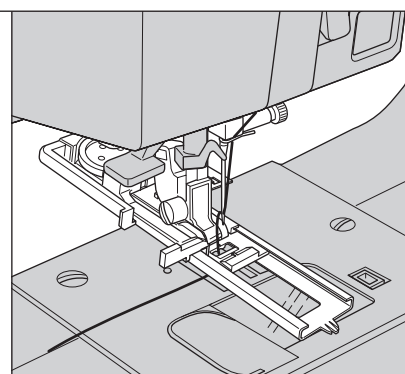
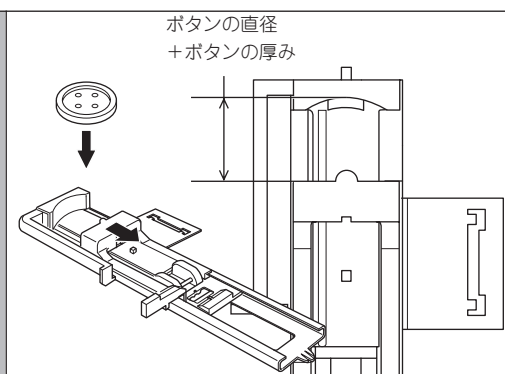
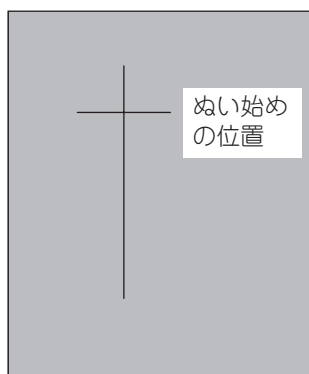


2種類のボタンホールをそれぞれワンタッチでぬうことができます。



それぞれジグザグのふり幅調整で、幅を3段階に変えられます。

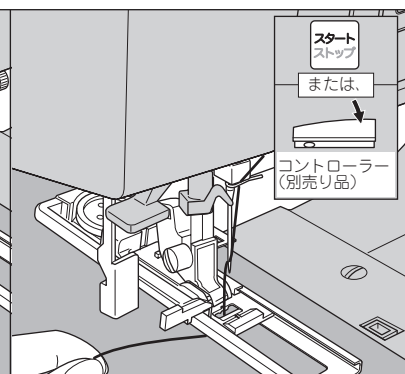
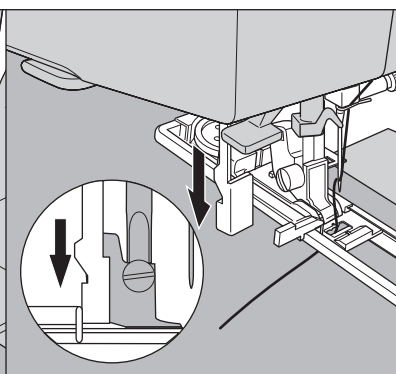
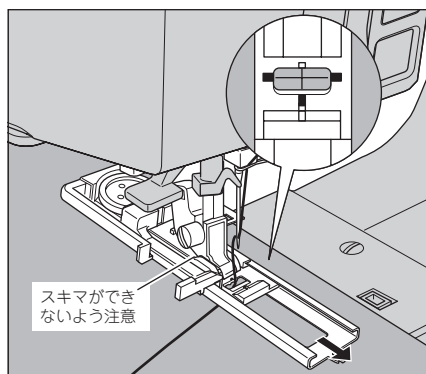
- 1 布地のボタンホールをぬう位置に印を付けます。
- 2 ボタンを押えの台にセットします。
- 3 上糸を押えの穴に通し、左側に出しておきます。



- 台にボタンがのらないとき
台の幅が「ボタンの直径+ボタンの厚み」になるようにスライドさせます。

下糸を引き上げているときは、下糸も左側に出しておきます。

- 4 布の印が押えの印に合うように布地を入れ、押えを下げます。
- 5 ボタンホールレバーをいっぱいに下げます。
- 6 上糸を軽く持ちながら、スタートさせます。

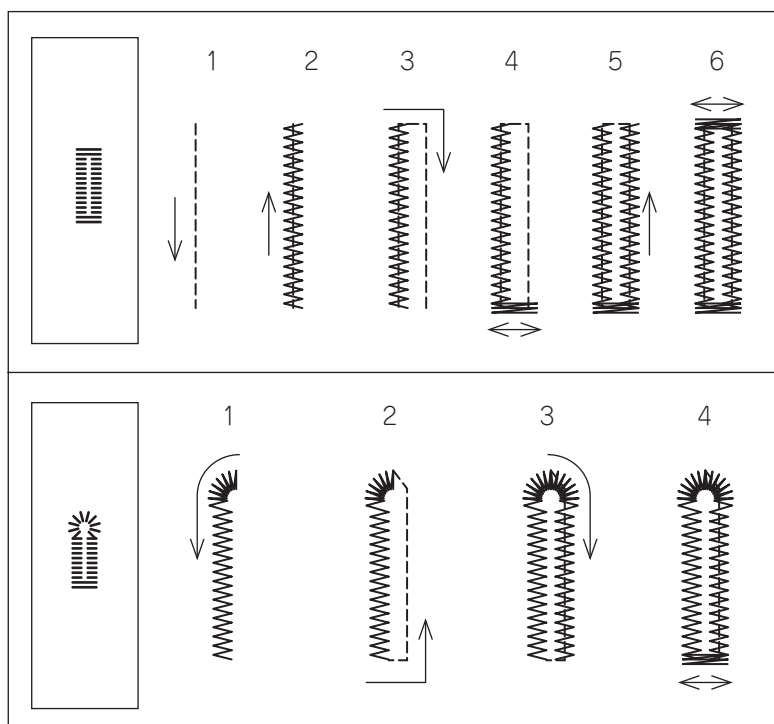


押えの枠と押えの間にスキマができないよう、枠を一番手前に引いてください。

ご注意: ボタンホールレバーをきちんと下げないと、お知らせランプが赤く点灯し、2〜3針ぬって止まります。

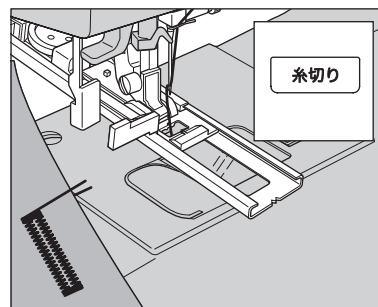
7 図の順序でボタンホールがぬわれていきます。

ぬい終わると自動的に止めぬいをして止まります。



8 糸切りボタンを押します。

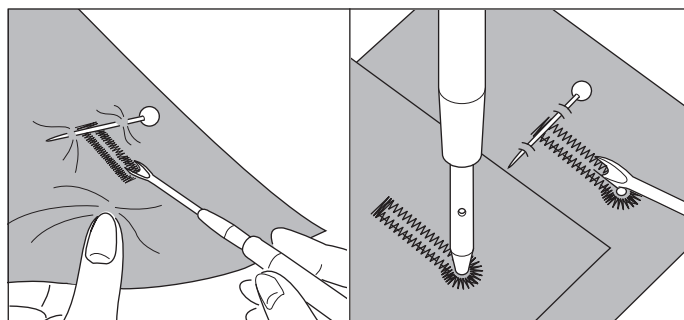
押えを上げて、布を外します。



ボタンホールをもう一度ぬうには、押えを上げて押えの枠を一番手前に戻してください。

9 シームリッパーでボタン穴を切り開きます。

模様^①のキーホールには、はと目穴パンチ（市販品）で穴をあけてからシームリッパーで切り開くときれいに仕上がります。

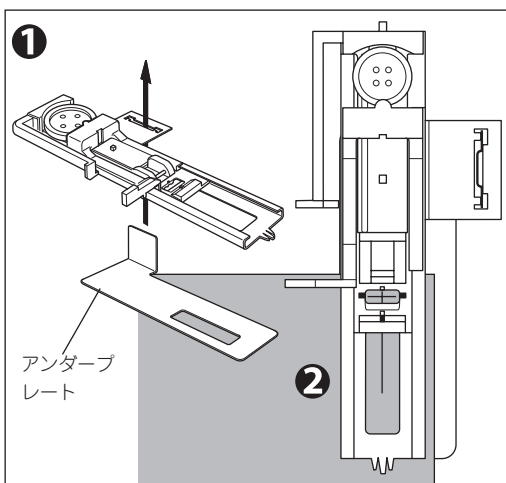


ぬい糸を切らないように注意してください。 穴をあけるときは、下に厚紙などを置いてください。 かん止めのところにまち針を刺しておくと、切り過ぎがありません。

●アンダープレートの使い方

薄地や送りにくい布、布端などのぬいにくい部分のボタンホールには、アンダープレートを使います。

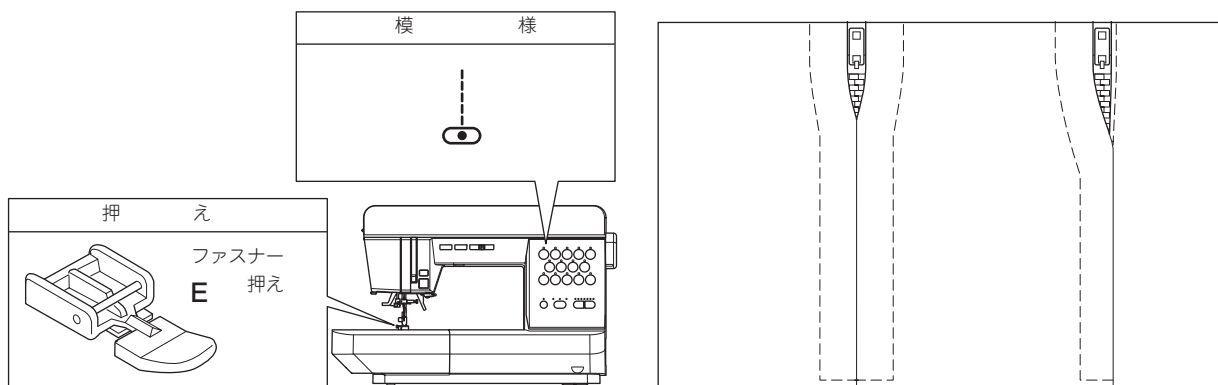
1. アンダープレートを押えの下から差し込んだまま、押えホルダーに取り付けます。
2. 布を押えの枠とアンダープレートの間にに入れてぬいます。



⚠ 注意：ケガ防止のために；

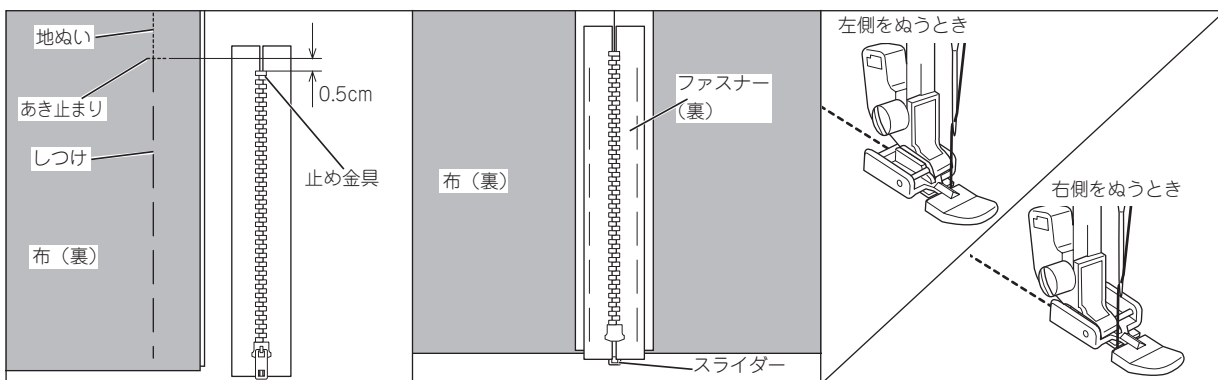
シームリッパーで穴を開く時、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべった時ケガをする恐れがあります。

ファスナー付け (つき合わせ・脇あき)



■つき合わせ

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。
- ② ぬい代をわり、ファスナーをしつけます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。

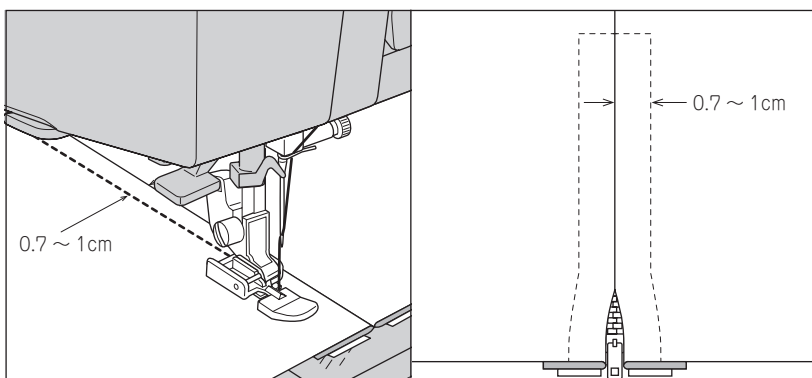


あき部分はしつけをします。

ぬい目線とファスナーの中心を合わせてとめます。
スライダーは手前に倒します。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。
- ⑤ あき止まりと右側をぬい、しつけをとります。

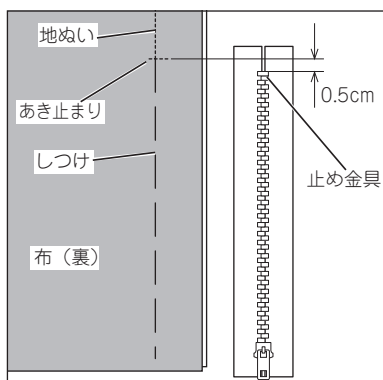


布の合わせ目から0.7～1cm 離してぬいます。 右側も同様に0.7～1cm 離してぬいます。

⚠ 注意：ケガ防止のために；
ファスナー押えを使うときは、必ず模様()を選び、針位置は変えないでください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたります危険です。

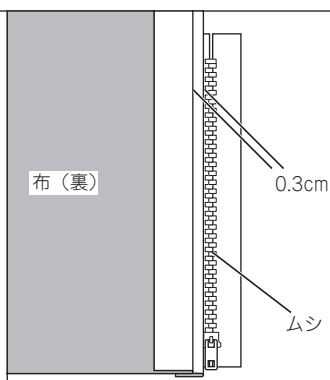
脇あき

- ① 中表にして、あき止まりまで地ぬいをします。

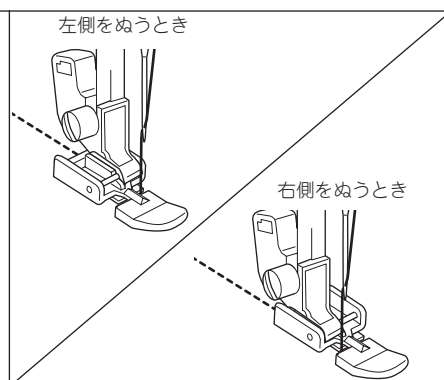


あき部分はしつけをします。

- ② ぬい代をわり、下の布のぬい代を 0.3cm 出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。

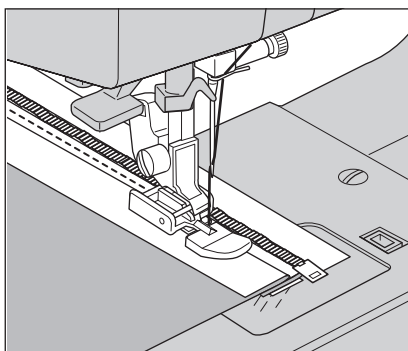


- ③ ファスナー押えを取り付けます。



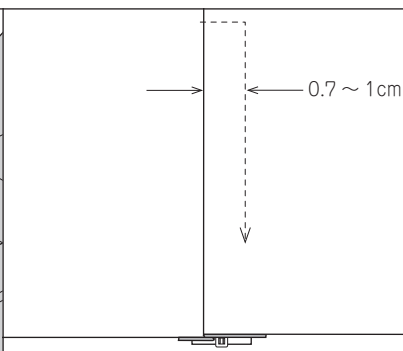
ファスナーの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のミゾをホルダーに入れます。

- ④ ファスナーの左側をあき止まりからぬいます。



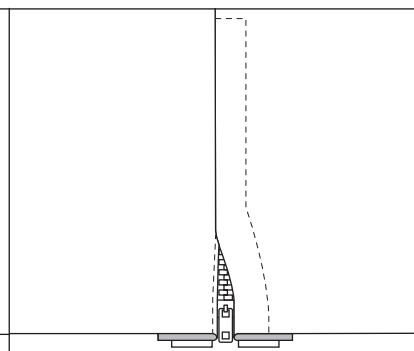
押えがファスナーのムシにのらないようにしてぬいます。

- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。



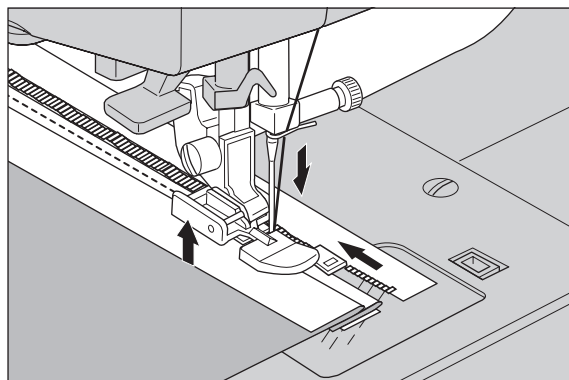
右側は、布の折り目から 0.7 ~ 1cm 離してぬいます。

- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。



●スライダーをよけてぬうには：

- 1 スライダーの手前でミシンを止めます。
- 2 針を下げて布に刺します。
- 3 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
- 4 押えを下げてぬい続けます。



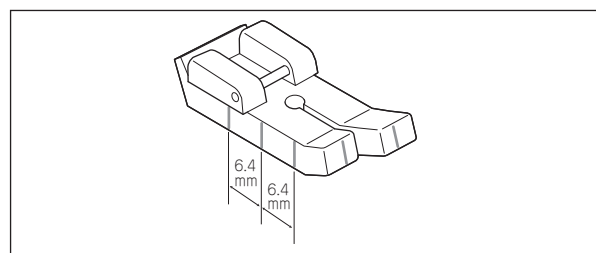
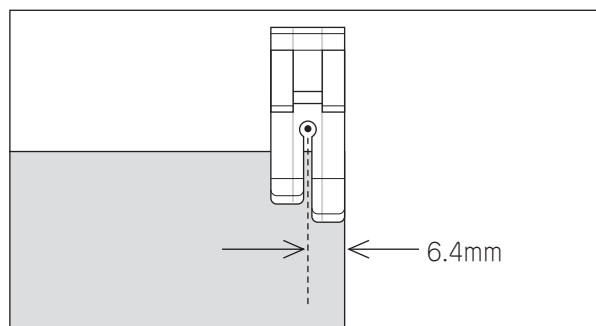
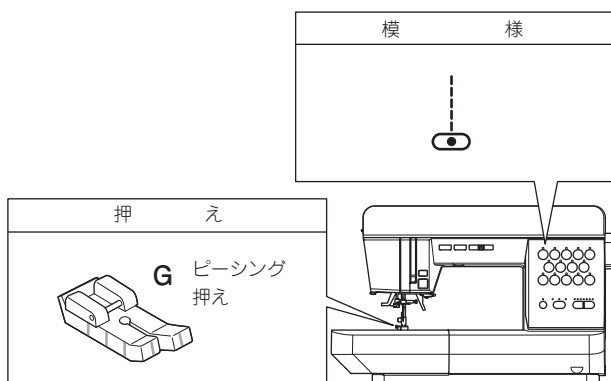
パッチワーク

■ピーシング

パッチワークで、布と布をぬい合わせることをピーシングといいます。

布地は、6.4mm (1/4インチ)のぬいしろをとって裁断します。

布を中表に合わせ、ピーシング押えの右端に布端を合わせて、地ぬいをします。



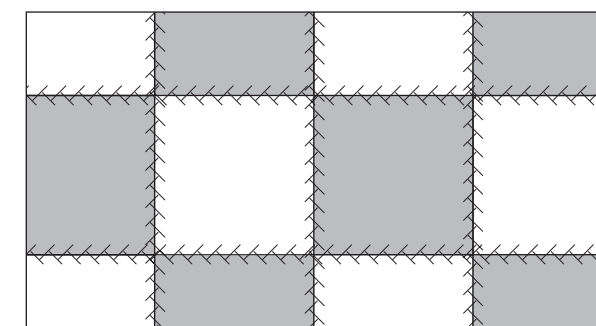
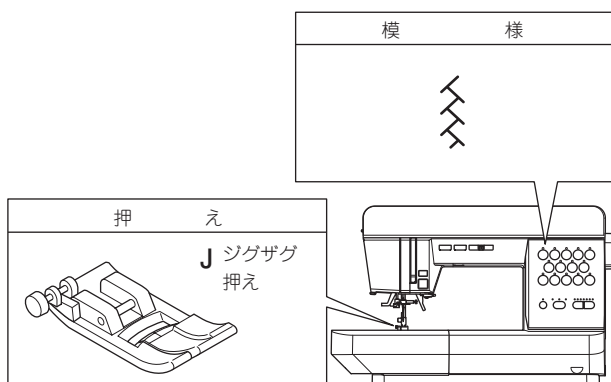
⚠ 注意：ケガ防止のために；

ピーシング押えを使うときは、必ず模様（）を選び、針位置は変えないでください。また、ぬう前には必ずハズミ車をゆっくり手前に回して、針が押えにあたらないことを確認してください。ほかの模様、針位置では、針が押えにあたり危険です。

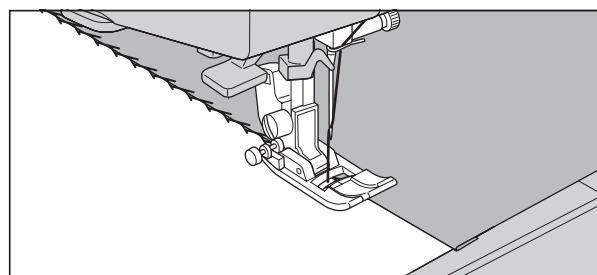
ピーシング押えには、前後に6.4mmの線がついていしますので、ぬい始めやぬい終わり、布地を回転させるときの目安になります。

■クレイジーキルト

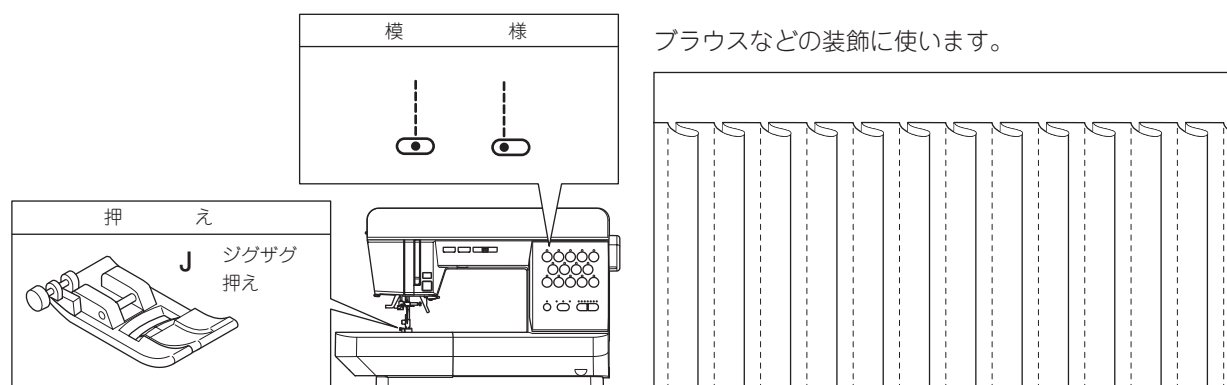
パッチワークのつなぎ目に飾りぬいをします。



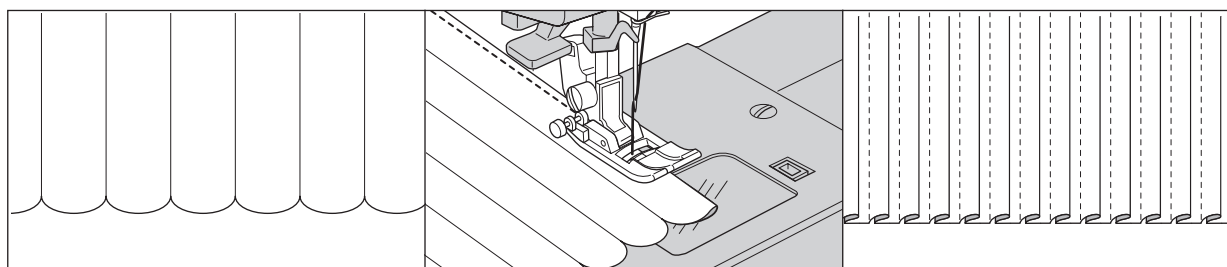
両方の布地に模様がまたがるようにしてぬいます。



ピンタック



- ① アイロンでピンタックの折り山を整えます。
- ② 折り山を伸ばさないようにしながら、ピンタックをぬいます。
- ③ アイロンで片側に倒します。

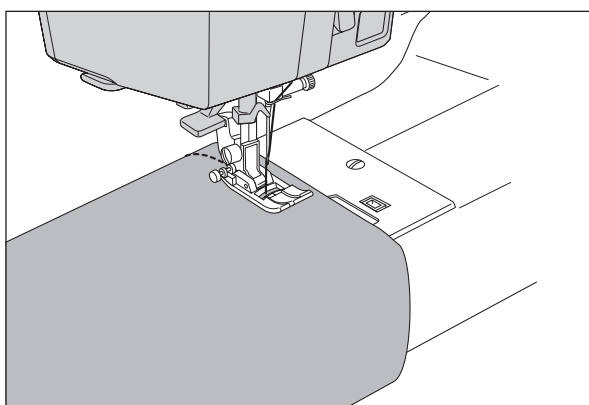


フリーアームぬい

補助テーブルを取り外すだけでフリーアームミシンになります。

袖口や肩口の始末、ズボンのすそのまつりぬいなどが簡単にできます。

- 補助テーブルの取り外し方は 8 ページを参照ください。
- まつりぬいは 28 ページを参照ください。



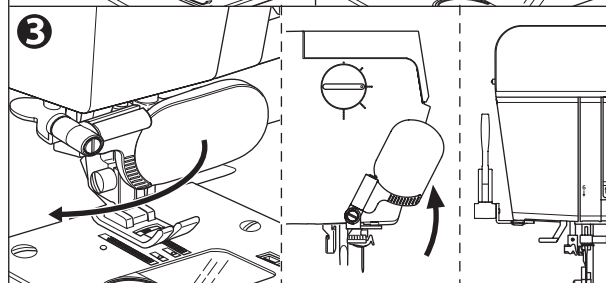
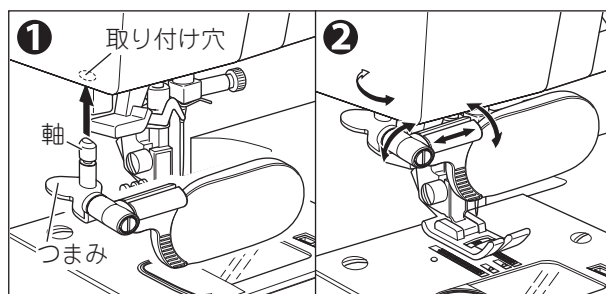
ルーペのご案内（別売り品）

別売りのルーペを使えば、針穴に糸を通すときなど、針もとを拡大で見やすくなります。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

ルーペの取り付け方

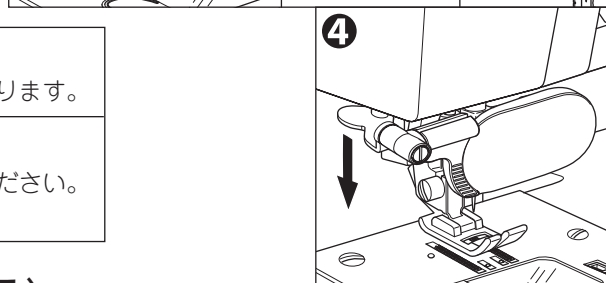
- ① ルーペのつまみを持って、軸を面板左下の取り付け穴に、止まるまで差し込みます。
- ② ルーペを動かして、針もとが見やすい位置に調節します。
- ③ ぬうときは邪魔にならないよう、ルーペを面板横に移動しておきます。



⚠ 注意：ケガ防止のために；
ルーペを見ながらのぬい作業は、危険です。
必ずミシンが停止した状態でお使いください。

ルーペの取り外し方

- ④ つまみを持って下に引き抜きます。
- ミシンカバーをかぶせるときは、必ずルーペを取り外してください。外さないとカバーの中でぶつかります。



⚠ 警告：ケガ防止のために；
ルーペで太陽を見ないでください。失明の危険があります。

⚠ 注意：火災を防ぐために；
ルーペを太陽光の直接当たる場所に放置しないでください。
火災の原因になります。

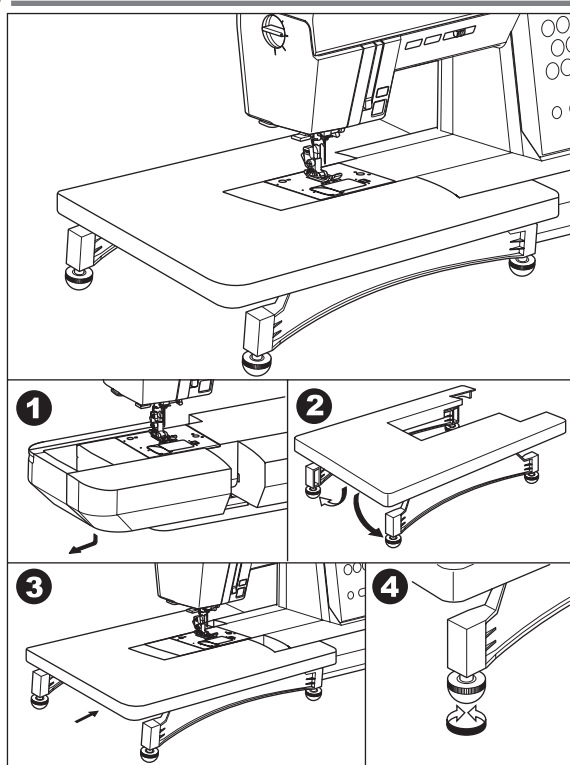
大型テーブルのご案内（別売り品）

カーテンなどの大きなものをぬうときに取り付けます。

● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

● 取り付け方

- ① 補助テーブルを取り外します。（8 ページ参照）
- ② 大型テーブルの脚を立てます。
- ③ ミシンに左からすべり込ませます。
- ④ 脚を回して、高さを調整します。



刺しゅう機のご案内（別売り品）

このミシンは、別売りの刺しゅう機を取り付けることによって、美しい刺しゅうぬいを簡単に楽しむことができます。

刺しゅう機には、ワンポイント刺しゅう、大型刺しゅうはもちろん、名前によく使われる漢字などの文字刺しゅうをたくさん内蔵しています。（内蔵している模様や文字は、機種により異なります。）

詳しくは、ミシンお買い上げの販売店、またはお客様相談係にお問い合わせください。

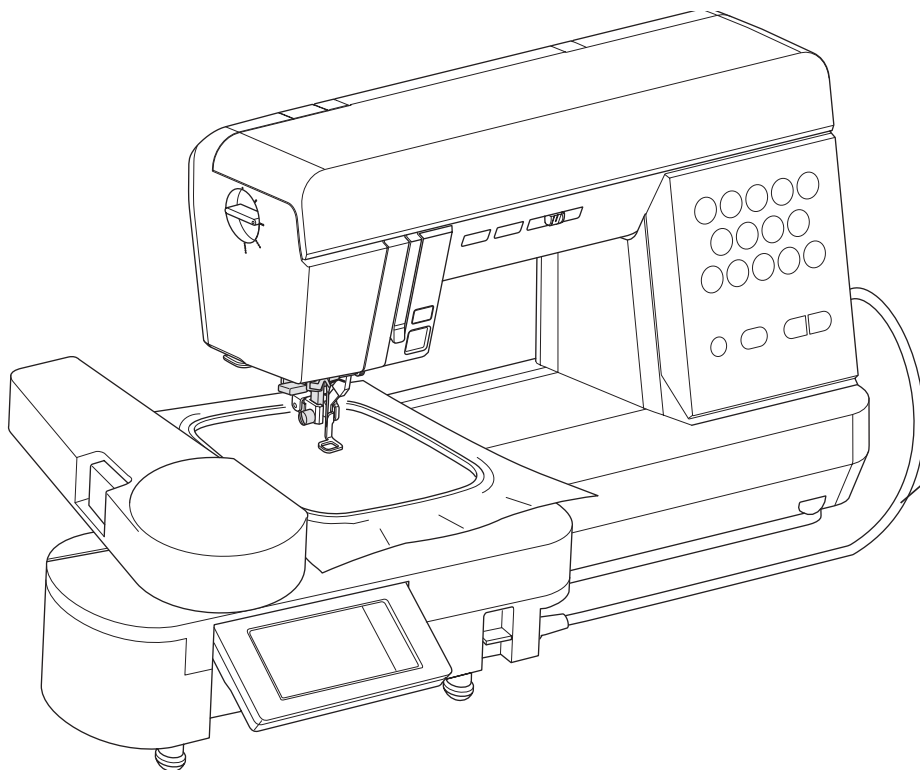
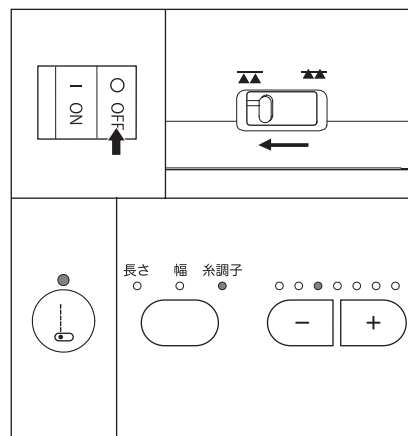
刺しゅう機を取り付けるときは、まず、電源スイッチを切り、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げておきます。

刺しゅう機を取り付けた後、ミシンの電源を入ると、

模様は  が選ばれ、機能は糸調子が選ばれます。糸調子は自動設定されますが、手動で調整することができます。

ミシン側の操作は、上糸調子の他にスタートストップ、糸切り、針上下／クイックスロー、スピード調節、下糸巻きができます。

- 刺しゅう機を取り付けると、針停止位置は、上になります。
- 詳しい使い方は、刺しゅう機に付属の「使用の手びき」をご覧ください。
- 刺しゅう機のお求めは、ミシンお買い上げの販売店、またはお客様相談係にお問い合わせください。
- 刺しゅうぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して、送り歯を上げておいてください。

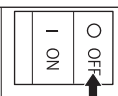


接続コードをミシンの接続口に差し込みます。

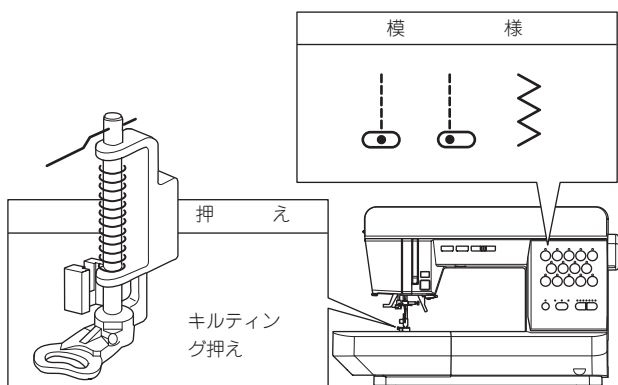


注意：ケガ防止のために；

刺しゅう機の取り付けは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



キルティング押えのご案内（別売り品）



キルティング押えを使うと、布を手で操作して、ぬう方向を自由に変えられるようにする曲線ぬいができます。
キルティング押えを使うときには、ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。

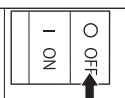
● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■キルティング押えの取り付け方



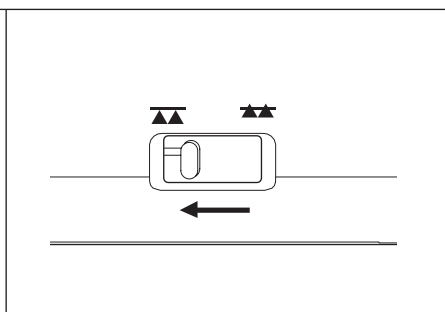
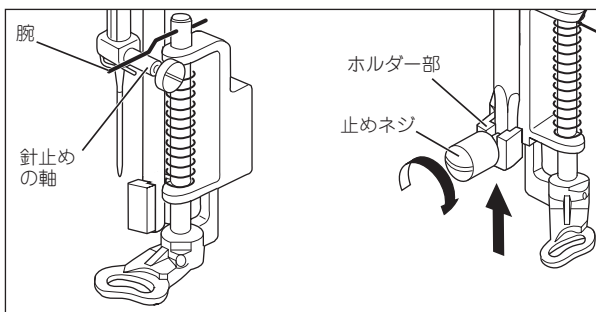
注意：ケガ防止のために；

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。



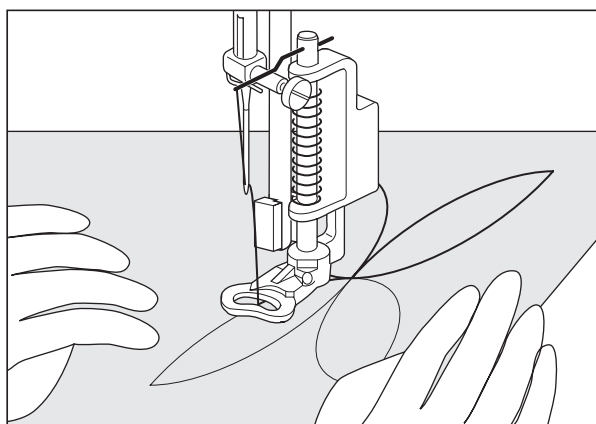
- ① 押えホルダーを取り外します。
(18 ページ参照)
- ② 押えの腕が、針止めの軸の上にくるように取り付け、押えのホルダー部を上を持ち上げながら、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。

- ③ ドロップフィードレバーを左にして、送り歯を下げます。



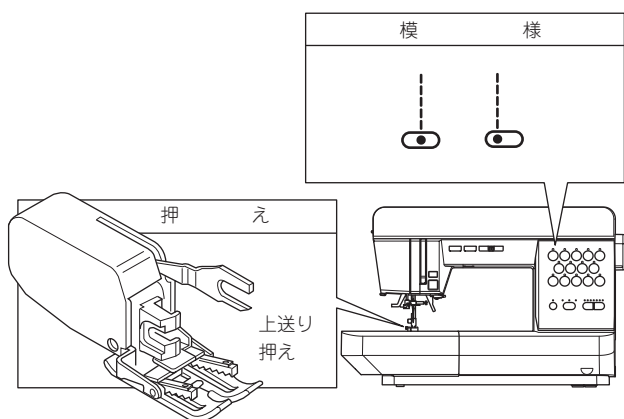
■ぬい方（曲線ぬい）

- ① 布に模様を下書きします。
薄い紙に書いて、布にのせる方法もあります。(ぬい終わってから紙を取り除きます。)
- ② 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
押えは始めは浮いていますが、ぬい始めると針と一緒に上下に動き出します。
- ③ スピードをゆっくりにします。
- ④ 下絵にそって布を動かしてぬいます。このとき手が針に触れないよう、十分注意してください。



● ぬいが終わったら、ドロップフィードレバーを右に戻して送り歯を上げておいてください。

上送り押えのご案内（別売り品）



くっついたり、伸びたり、また、すべりやすい布地に、上送り押えを使うと2枚の布地がずれることなく、きれいで均一なぬい目が得られます。
次のような布地にお使いください。

- 格子じまやしま地
- ビニール、レザーや、つやのある布地
- パイル地、けば立った布地
- ベルベットやとくにすべりやすい化繊地
- 長いぬい合わせに…

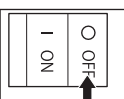
● お求めは、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

■上送り押えの取り付け方



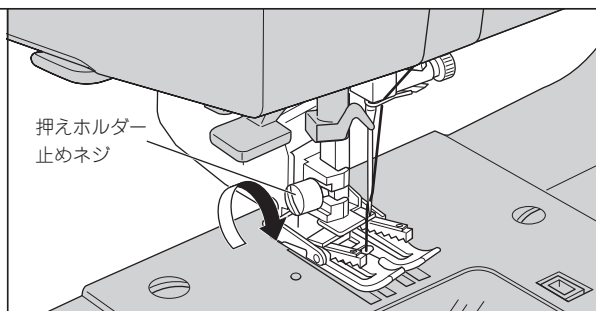
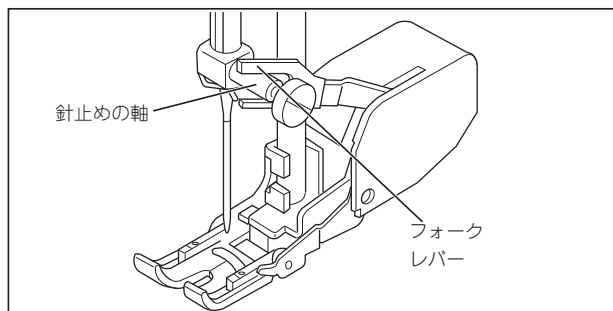
注意：ケガ防止のために；

必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



- ❶ 押えホルダーを取り外します。
(18 ページ参照)
- ❷ 上送り押えのフォークレバーを針止めの軸にかけます。

- ❸ 押えのホルダー部を押え棒に後ろから取り付け、押えホルダー止めネジをしっかりとしめます。



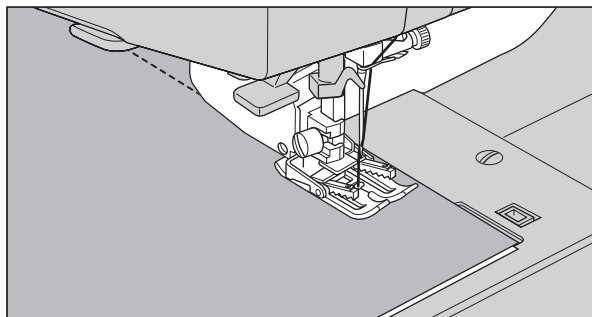
■ぬい方

スピードをゆっくりにしてぬってください。



注意：ケガ防止のために；

上送り押えは、必ず上記の模様だけにお使いください。



ミシンのお手入れ

糸くずやほこりがたまると、ぬい上がりを悪くしたり、故障の原因にもなります。
いつも清潔にしておいてください。

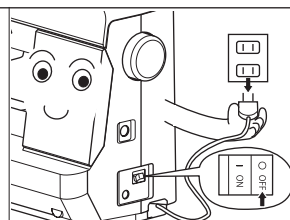
●お知らせ

このミシンのライトには、長寿命のLED ライトを使用しています。

もし、ライトが切れた場合には、ミシンお買い上げの販売店にご相談ください。

⚠警告；感電、ケガ防止のために；

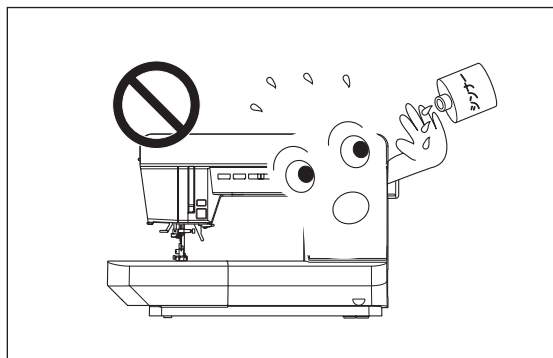
お手入れの際は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。



■ミシン表面、ミシンカバーの掃除

やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。

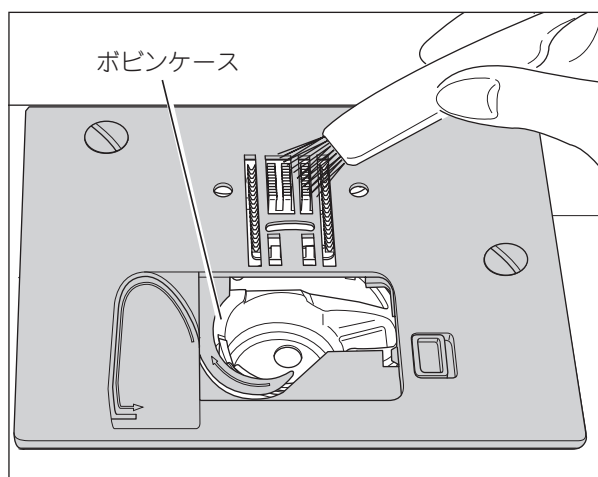
シンナーやベンジンなどでふかないでください。



■ボビンケースの掃除

ボビンカバーとボビンを取り外し、ブラシなどで掃除してください。

- 外がまやボビンケースには、油をささないでください。



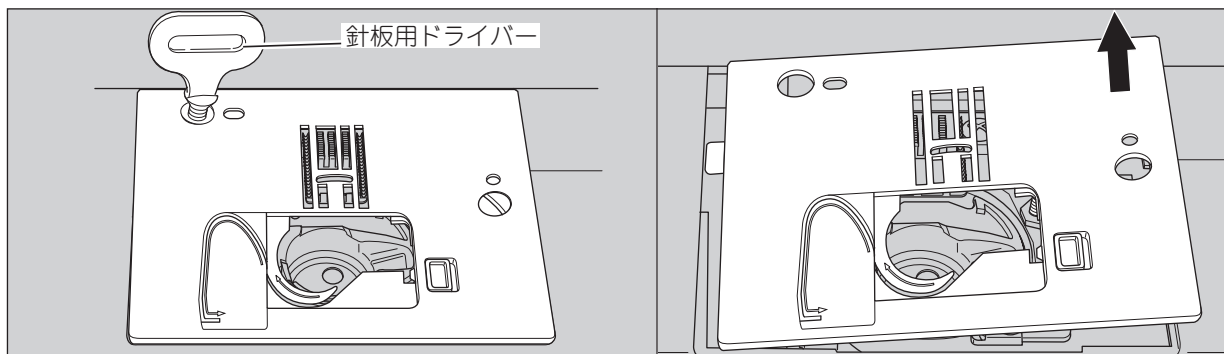
■外がまと送り歯の掃除

定期的に針板を外して、中の外がまや送り歯を掃除してください。

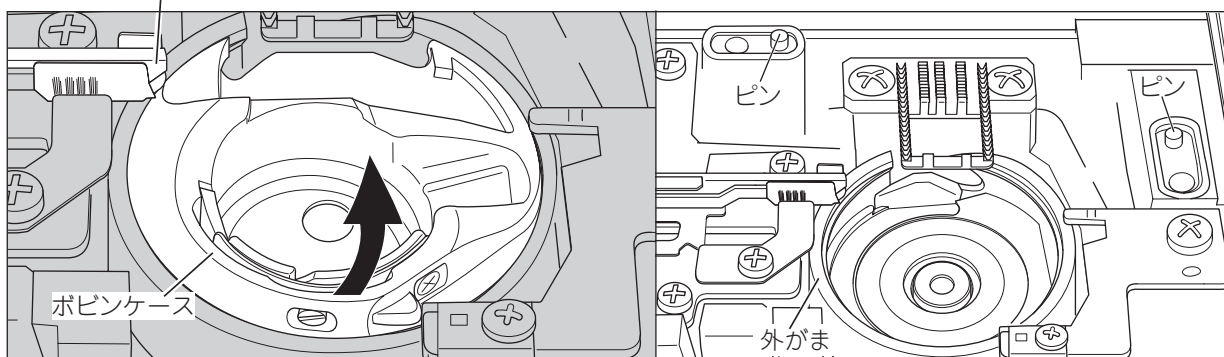
⚠ 注意：ケガ防止のために

針板を外すと、送り歯の左下に糸切り装置があります。この内部には糸を切るための鋭利な部品が使われています。安全のため、糸切り装置には、直接指で触らないでください。

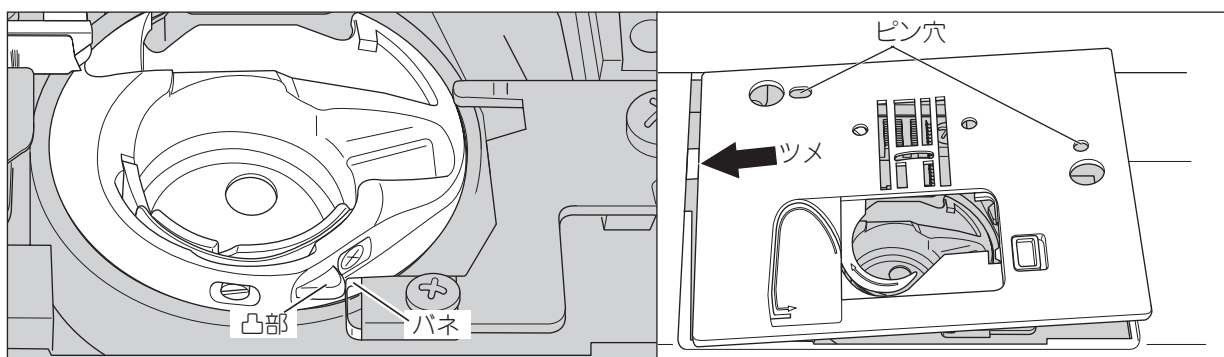
- ① 針と押えホルダーを取り外します。
ボビンカバーとボビンを取り外します。
針板止ネジ2本を外します。
- ② 針板の右側を持ち上げて、針板を取り外します。



- ③ ボビンケースの手前を上を持ち上げて取り出します。
⚠ 注意 糸切り装置に触らないでください。
- ④ 外がまと送り歯のまわりを掃除します。
●掃除機を使うときれいになります。
ボビンケースのよごれはかわいた布で軽くふき取ります。



- ⑤ ボビンケースを外がまの中に手前からすべり込ませます。
ボビンケースの凸部が回転止めのパネに当たるようにします。
- ⑥ 針板左側のツメをミシン本体に差し込み、針板のピン穴をミシンのピン（④図参照）に合わせて取り付けます。針板止めネジを取り付けます。



こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてみてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	糸のかけ方がまちがっている ボビンケースに糸がからまっている 針の取り付け方がまちがっている 布地に対して糸が弱すぎる	正しくかけ直します からんだ糸を取りのぞき掃除します 正しく付け直します 布地と糸、針の関係を合わせます	16 40 19 19
下糸が切れる	ボビンのセットがまちがっている ボビンケースに糸がからまっている 外がまにゴミがたまっている	正しくセットし直します からんだ糸を取りのぞき掃除します 掃除します	15 40 41
ぬい目がとぶ	針の取り付け方がまちがっている 針が曲がっているか、先がつぶれている 布地に対して糸と針が合っていない	正しく付け直します 針を取りかえます 布地と糸、針の関係を合わせます	19 19 19
ぬい目にしわがよる	糸のかけ方がまちがっている ボビンのセットがまちがっている 針の先がつぶれている	正しくかけ直します 正しくセットし直します 針を取りかえます	16 15 19
ぬい目に輪ができる	ボビンのセットがまちがっている 糸のかけ方がまちがっている	正しくセットし直します 正しくかけ直します	15 16
模様がくずれる	模様に対して押えが合っていない	模様に合った押えを取り付けます	24 ～
糸通しができない	針が上にながっていない 針の取り付け方がまちがっている 針が曲がっている	針上下ボタンで針を上に出します 正しく付け直します 針を取りかえます	10 19 19
布地を送らない	ぬい目長さが布地に合っていない 送り歯が下がっている 送り歯にほこりがかたまっている	ぬい目長さを調整します ドロップフィードレバーを右にして、 送り歯を上げます 掃除します	11 10 41
針が折れる	布地を無理に引っ張っている 模様に対して押えが合っていない（針が押えにあたっている） 針の取り付け方がまちがっているか、しめ方がゆるい 布に対して針が細すぎる	手は布地にそえるだけにします 模様に合った押えを取り付けます 正しく付け直します 布地と糸、針の関係を合わせます	20 24 ～ 19 19
回転が重く音が高い	外がまや送り歯にゴミがたまっている	針板を外して掃除します	41
ミシンが動かない ●お知らせランプ …緑に点灯 …赤く点灯 …赤く点灯	電源プラグの差し込みが不十分である 電源スイッチが入っていない 上糸または下糸が切れたか、なくなった フットコントローラーが取り付けられている 糸巻き軸が右へ押されている 押えが上になっている ボタンホールぬいで： ボタンホールレバーがきちんと下がっていない ボタンホール押えが取り付けられていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます 上糸または下糸をかけ直します コントローラーで操作するか、コン トローラーを外します 左へもどします 押えを下げます きちんと下げます ボタンホール押えを取り付けます	9 9 15,16 9 14 10 28 28

この頁に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または「お客様相談係」（次ページ参照）におたずねください。

LEDライトを消したり、操作音を鳴らなくするには

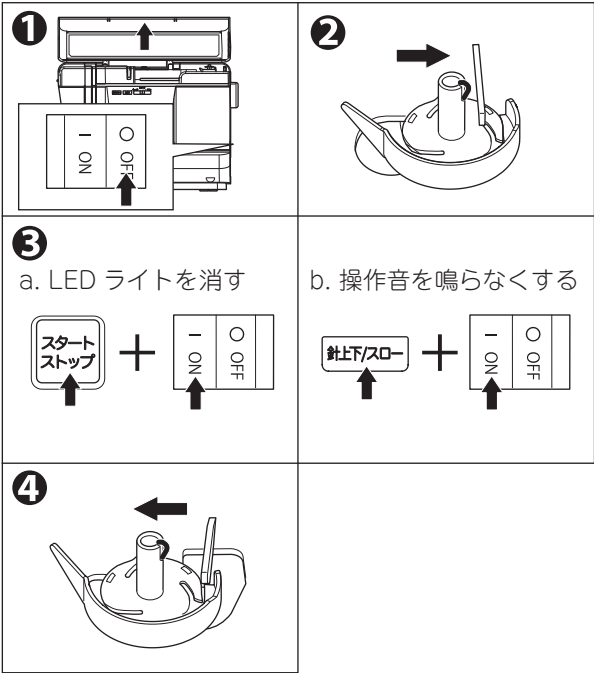
このミシンは、針もとを照らすLEDライトを消したり、ボタンを押したときの「ピッ」という操作音を鳴らなくした状態で操作することができます。

- 1 電源スイッチを切り、トップカバーを開けます。
- 2 糸巻き軸を右に押します。

- 3 a. LEDライトを消すには
スタート・ストップボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。
 - b. 操作音を鳴らなくするには
針上下／クイックスローボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。
- 両方を同時に行いたいときは、両方のボタンを押しながら、電源スイッチを入れます。

- 4 糸巻き軸を左に戻します。

ボタンを何も押さずに電源スイッチを入れ直すと、通常の状態に戻ります。



- 注意：ケガ防止のために；**
- 操作音を鳴らなくすると、誤った操作をしたときの警告音も鳴らなくなります。操作には十分注意してください。
 - 電源スイッチを入れるときは、スタート・ストップボタン、針上下／クイックスローボタン以外のボタンは押さないでください。誤作動の原因となります。

仕様

定 格 電 圧	100 V
消 費 電 力	45 W
周 波 数	50Hz/60Hz
ラ イ ト	白色 LED
寸 法	幅：475 mm × 高さ：300 mm × 奥行き：186 mm
重 量	8.5 kg

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1 このミシンのご購入者には、ご購入店から3年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間には必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 1 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
 - イ 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 二 ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ホ 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 2 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
 - 3 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
 - 4 このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

お問い合わせまたはご相談先（純正部品の購入方法）

シンガーミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越してください。

株式会社 ハッピージャパン

「シンガーミシンお客様相談係」

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
TEL. 03-3837-1862 FAX. 03-3837-0072

- * 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- * シンガー純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「シンガーミシンお客様相談係」におたずねください。

●無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から3カ年間）内に故障した場合は、無料で故障箇所の修理調整または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球など消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 無料修理保証をお受けいただくときは、ミシンを購入店へご持参またはご相談ください。

●無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「使用の手びき」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災等、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入後の移動または輸送によって、不調、故障または損傷したとき。
4. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
6. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
7. この保証書のご提示がなかったとき。
8. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
9. この保証書の字句の訂正または書き換え等をしたとき。
10. この保証書は日本国内に限り有効といたします。

●有料修理について

1. 上記の1.～10.に該当する場合、その他有料で修理をするときの費用は、別に定める必要部品代、出張費および技術料の合計額といたします。
2. 無料修理期間中にお客様のご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

●お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「使用の手びき」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。

SINGER®

シンガーミシン

保 証 書

機械本体がお客様の正常な使用状態で万一故障した場合は、裏面記載の内容で無料修理を保証します。

型 式	TRX-3000	機 械 番 号	
* お 買 上 げ 日	年 月 日	保 証 期 間	お買い上げ日より本体 3 年
* お 客 様	ご 住 所	〒 TEL	
	フリガナ ご 芳 名	様	
* 販 売 店	住 所 店 名	〒 (印) TEL	

* 印欄に記入のない場合無効となります。必ず記入の有無をご確認ください。
もし、記入がない場合には、直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。
本書は、再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

株式会社ハッピージャパン

ミ シ ン 営 業 部

〒 110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号
電話 03-3837-1865

(本社) 〒 990-2251 山形県山形市立谷川3丁目 3515